

(別表第1)

サービス評価結果表

サービス評価項目

(評価項目の構成)

I. その人らしい暮らしを支える

(1) ケアマネジメント

(2) 日々の支援

(3) 生活環境づくり

(4) 健康を維持するための支援

II. 家族との支え合い

III. 地域との支え合い

IV. より良い支援を行うための運営体制

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

【外部評価実施評価機関】※評価機関記入

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	愛媛県松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	令和 5 年 10 月 6 日

【アンケート協力数】※評価機関記入

家族アンケート	(回答数) 3名	(依頼数) 18名
地域アンケート回答数	1名	

※事業所記入

事業所番号	3890200011
事業所名	ウェルえがお
(ユニット名)	なでしこ
記入者(管理者)	
氏名	黒川 瞳
自己評価作成日	令和 5 年 8 月 29 日

(別表第1の2)

<p>【事業所理念】</p> <p>1.私たちは、利用者様を笑顔にします。</p> <p>2.私たちは、利用者様と地域社会との架け橋になります。</p> <p>3.地域に根差し、安心と信頼の介護を通して社会に貢献します。</p>	<p>【前回の目標達成計画で取り組んだこと・その結果】</p> <p>1.家族会や運営推進会議のメンバーに改善に向けた取り組みをモニタリングしていただく等、家族に事業所の取り組みについて理解を得ることは、コロナ禍から徐々に以前の状態に戻っている状態であり、家族会も開催出来ていない。</p> <p>2.利用者様がより食事を楽しむことができるよう取り組むことについては、調理専属のスタッフが不在であるが、外食や各行事の際のお弁当(お花見弁当等)やおやつ作りを一緒に行うことで工夫している。</p>	<p>【今回、外部評価で確認した事業所の特徴】</p> <p>今治城や今治港の近くの交差点の角にある事業所は、道路沿いからすぐ入れることもあり、植栽が植えられるなど、地域住民も立ち寄りやすい雰囲気を感じられる。また、同法人が運営するグループホームの「ウェルえびす」があり、感染対策で現在は休止状態であるが、以前は1階スペースに地域交流のための「メモリーカフェくぼ」を開設し、地域住民も利用して、交流を図ることができていた。コロナ禍や感染対策で、事業所で生活を送る利用者に制限が設けられ、外出支援や地域との交流に影響が及んでいる。少しでも、利用者の生活の質が向上できるように、ユニットごとに2台のワゴン車を活用して、季節の花や海の絶景などを見に行ったり、利用者と一緒に外食に出かけたりするなど、気分転換を図れるよう支援している。徐々に、地域のおんま祭りやイベントが再開されるようになったことで、利用者が参加できる機会が戻ってきている。さらに、毎月季節を感じる壁面の作品を作成して、季節を感じるとともに、利用者のやりがいや達成感に繋がっている。加えて、行事や誕生会などの行事を企画するとともに、各階にあるベランダから景色を眺めながら外気浴をするなど、利用者が穏やかに、楽しみのある生活が送れるよう支援している。代表者や管理者は、職員の相談に気軽に応じたり、人員配置までの余裕はないものの、希望休の取得を促したり、キャリアアップ制を導入するなど、働きやすい職場環境づくりに努めている。</p>
--	---	---

評価結果表

【実施状況の評価】

◎よくできている ○ほぼできている △時々できている ×ほとんどできていない

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
I.その人らしい暮らしを支える									
(1)ケアマネジメント									
1	思いや暮らし方の希望、意向の把握	a	利用者一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。	○	入居時の聞き取りにより、暮らし方の希望や意向の把握となるよう、努めている。	○	/	○	入居時に、職員は利用者や家族から、思いや暮らしに関する希望を聞き取るようにしている。また、日常の会話の中で、利用者から思いを聞くよう努めている。把握した情報は、利用者台帳に取りまとめられ、職員間で情報を共有している。さらに、介護計画の更新時にも、改めて利用者へアセスメントを行い、情報の更新をしている。日常の記録の中にも、聞き取った内容を記録に残すことで、ケアの展開がよりスムーズになることも期待される。
b	把握が困難な場合や不確かな場合は、「本人はどうか」という視点で検討している。	○	日頃からの話し合い等により、把握困難者の希望や意向の把握について検討している	/	/	/			
c	職員だけでなく、本人をよく知る人(家族・親戚・友人等)とともに、「本人の思い」について話し合っている。	○	電話等により日々の状態をお伝えし、その都度ご家族等に確認している。	/	/	/			
d	本人の暮らし方への思いを整理し、共有化するための記録をしている。	○	業務日誌や毎日の申し送りにより共有している。	/	/	/			
e	職員の思い込みや決めつけにより、本人の思いを見落とさないように留意している。	○	勝手な思い込みやスタッフ本位のケアとならないよう、努めている。	/	/	/			
2	これまでの暮らしや現状の把握	a	利用者一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、こだわりや大切にしてきたこと、生活環境、これまでのサービス利用の経過等、本人や本人をよく知る人(家族・親戚・友人等)から聞いている。	○	入居時の聞き取りやサービスを利用してからの暮らし方によりこだわりや習慣等を把握するようにしている。	/	/	◎	ICF情報整理シートを活用して、利用者の生活に関わる全体像の把握に努めている。入居時に、管理者等は利用者や家族と面会を行い、生活歴や生活環境などの聞き取りをしている。また、在宅生活から入居に繋がる利用者には、家族や親族から情報を聞くこともある。さらに、以前利用していたデイサービスや居宅介護支援事業所の担当者から情報の収集をしている。時には、利用者により、自治会や警察などの関係機関から、包括的に情報を聞くこともある。
b	利用者一人ひとりの心身の状態(身体面・精神面)や有する力(わかること・できること・できそうなこと等)等の現状の把握に努めている。	○	ミーティングや現況報告書の作成時等、現状把握に努めている。	/	/	/			
c	利用者一人ひとりの一日の過ごし方や24時間の生活の流れ・リズム等、日々の変化や違いについて把握に努めている。(生活環境・職員のかかわり等)	○	【1日のケア記録】等により、一人ひとりの生活リズムの把握に努めている。	/	/	/			
3	チームで行うアセスメント(※チームとは、職員のみならず本人・家族・本人をよく知る関係者等を含む)	a	把握した情報をもとに、本人が何を求め必要としているのかを本人の視点で検討している。	○	利用者様の視点で物事を考える事で、ニーズの把握となるよう、努めている。	/	/	◎	ミーティングの際に、職員間で話し合い、ICF情報整理シートを作成している。また、利用者ごとの担当職員が中心となり、一人ひとりの介護手順書を作成している。さらに、利用者がより良く暮らせるように、支援方法をきめ細かく整理することができている。
b	検討した内容に基づき、本人がより良く暮らすための課題の把握に努めている。	○	日頃の話合い等により、課題の把握に努めている。	/	/	/			
4	チームでつくる本人がより良く暮らすための介護計画	a	本人の思いや意向、暮らし方が反映された内容になっている。	○	本人様の思いや意向を反映できるよう、努めている。	/	/	/	事前に、利用者から意見や要望を聞くほか、家族から電話連絡時を活用して、意見や意向の聞き取りをしている。また、主治医から指示や助言をもらい、アセスメント情報や把握した情報をもとに、ミーティング時を活用して、職員間で意見やアイデアを出し合いながら話し合い、介護計画を作成している。また、眠前薬を使用するよりも、利用者のペースに合わせて、生活を送れることを優先した支援に取り組んでいる。さらに、介護支援計画の内容が、アセスメント内容を活用しながら、より個別具体的で支援の実施と評価に取り入れるなどの考慮が行われることも期待される。
b	本人がより良く暮らすための課題や日々のケアのあり方について、本人、家族等、その他関係者等と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映して作成している。	○	状況の変化や本人様、ご家族等の意見や意向を踏まえて作成するよう、努めている。	○	/	○			
c	重度の利用者に対しても、その人が慣れ親しんだ暮らし方や日々の過ごし方ができる内容となっている。	○	重度化した利用者様においてもこれまで通りの暮らしができるよう、努めている。	/	/	/			
d	本人の支え手として家族等や地域の人たちとの協力体制等が盛り込まれた内容になっている。	△	プラン内容はそうであっても状況により実施出来ていないことはある。	/	/	/			

項目 No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと		
5	介護計画に基づいた日々の支援	a	利用者一人ひとりの介護計画の内容を把握・理解し、職員間で共有している。	○	職員間で共有できるよう、その都度確認している。	/	/	/	◎	ミーティングを活用して、職員間で介護計画の内容を共有している。また、利用者の個別ファイルに計画は綴られ、職員は確認できるようになっている。ケアプランチェック一覧表を活用して、利用者の計画に沿った支援の実施記録を記載し、個別に実施状況が確認できるようになっている。さらに、個別の介護経過記録には、日勤帯は黒字、夜間帯は赤字で使い分けて、日々の生活の様子を記録に残すほか、生活と身体生活状況の記録で、利用者の状態が分かるようにしている。利用者が発した言葉を残したり、実際にどのように感じているかをくみ取ったりするなど、生活課題に直面した場合のヒントになることも考えられ、より個別具体的な記録を残していくことも期待される。	
		b	介護計画にそってケアが実践できたか、その結果どうだったかを個別具体的に記録して職員間で状況確認を行うとともに、日々の支援につなげている。	○	日々のかかわりの中で状況確認を行っている。	/	/	/	○		
6	現状に即した介護計画の見直し	a	介護計画の期間に応じて見直しを行っている。	○	期間内であっても入退院時には見直ししている。	/	/	/	◎	介護支援計画は、6か月に1回見直しをしている。また、認知症状の進行や退院などの大きな変化が生じた場合には、その都度見直しをしている。また、担当職員がケアプランチェック一覧表等を活用して、毎月利用者の現状を把握するとともに、現状報告書に写真を添えて家族に送付し、利用者の近況を伝えている。さらに、IADL・ADLごとの評価も行われ、日々の利用者の生活の様子を取りまとめて、記録を残している。	
		b	新たな要望や変化がみられない場合も、月1回程度は現状確認を行っている。	○	毎月の現況報告書作成により把握している。	/	/	/	◎		
		c	本人の心身状態や暮らしの状態に変化が生じた場合は、随時本人、家族等、その他関係者等と見直しを行い、現状に即した新たな計画を作成している。	○	介護計画の期間内であっても心身状態に大きな変化があった時には見直しを行っている	/	/	/	○		
7	チームケアのための会議	a	チームとしてケアを行う上での課題を解決するため、定期的、あるいは緊急案件がある場合にはその都度会議を開催している。	○	定期的あるいは適宜開催している。	/	/	/	◎	月1回ユニットごとにミーティングを実施し、情報共有をするほか、利用者の現状確認や課題などの話し合いをしている。また、法人内の主任会も開催され、各ユニットの主任が情報共有をしている。より有意義な会議となるように、事前に家族から意見や要望を聞くほか、職員から意見を出してもらっている。会議に参加できなかった職員には、議事録等を確認して押印するとともに、管理者が口頭で説明をしている。	
		b	会議は、お互いの情報や気づき、考え方や気持ちを率直に話し合い、活発な意見交換ができるよう雰囲気や場づくりを工夫している。	○	お互いが意見や気づきを話し合えるような雰囲気や関係づくりに努めている。	/	/	/	○		
		c	会議は、全ての職員を参加対象とし、可能な限り多くの職員が参加できるよう開催日時や場所等、工夫するとともに、参加できない職員にも内容を正確に共有している。	○	参加できなかったスタッフにも内容を共有できるよう、記録に目を通し、細部は口頭で説明している。	/	/	/	○		
8	確実な申し送り、情報伝達		日々の申し送りや情報伝達を行い、重要な情報は全ての職員に伝わるようにしている。(利用者の様子・支援に関する情報・家族とのやり取り・業務連絡等)		業務日誌や口頭での申し送り等により共有できるよう、努めている。	◎	/	/	○	日誌や申し送りノートを活用して、日々の申し送りを実施し、職員間で情報共有をしている。利用者の様子は、介護経過記録に記載され、申し送りは業務的な情報伝達となっている。また、出勤時等に日誌や申し送りノートなどを確認し、確認後に職員は押印するなど、確実な情報共有に繋げている。	
(2) 日々の支援											
9	利用者一人ひとりの思い、意向を大切に支援	a	利用者一人ひとりの「その日したいこと」を把握し、それを叶える努力を行っている。	○	その日の要望を実行できるよう、努めている。	/	/	/	/	着る服や飲み物、レクリエーションの参加の有無など、生活の様々な場面で、職員は声をかけ、利用者に自己決定や選択をしてもらえるよう支援している。自己決定が難しい利用者には、着る服を2種類用意し、表情やしぐさなどを観察しながら、二者択一で選んでもらえるように工夫をしている。また、選択方法を提示することに留まらず、職員は利用者の気持ちが動くように自然に声をかけて誘うなど、行動に結びつくような工夫も行われている。さらに、周りの利用者の雰囲気により外出や散歩に出かける際にも、自主的に利用者自身で意思決定できるような環境を設けている。加えて、職員は利用者の興味のある花や昔話などの話題を提供し、楽しく過ごすことができるようにしている。	
		b	利用者が日々の暮らしの様々な場面で自己決定する機会や場をつづけている。(選んでもらう機会や場をつくる、選ぶのを待っている等)	△	選んでいただいたり、難しい場合は選択性にして自己決定できるよう、努めている。	/	/	/	/		○
		c	職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースや習慣を大切に支援を行っている。(起床・就寝、食事・排泄・入浴等の時間やタイミング・長さ等)	○	一人ひとりの生活ペースを尊重し、業務都合なスケジュールとならなよう、努めている。	/	/	/	/		○
		d	利用者の活き活きした言動や表情(喜び・楽しみ・うるおい等)を引き出す言葉がけや雰囲気づくりをしている。	○	スタッフは日頃から親しみやすく接するよう努めている。	/	/	/	/		○
		e	意思疎通が困難で、本人の思いや意向がつかめない場合でも、表情や全身での反応を注意深くキャッチしながら、本人の意向にそった暮らし方ができるよう支援している。	○	意思疎通が困難な利用者様においても意向の表出を敏感にキャッチすることで、本人様の意向に沿った暮らしとなるよう、努めている。	/	/	/	/		/
10	一人ひとりの誇りやプライバシーを尊重した関わり	a	職員は、「人権」や「尊厳」とは何かを学び、利用者の誇りやプライバシーを大切に言葉かけや態度等について、常に意識して行動している。(人前であからさまな介護や誘導の声かけをしないよう配慮、目立たずさりげない言葉かけや対応等)	○	社会の功労者である利用者様には、尊敬の念をもってのお声掛けとプライバシーにも配慮した行動をするよう、意識している。	◎	◎	◎	人権や尊厳などの勉強会を実施し、職員は声のかけ方などの注意を払い、意識した対応に努めている。また、ミーティングなどを活用して、職員間で振り返りや話し合いを行い、きつい言葉や命令口調で話さないように注意喚起をしている。さらに、居室を利用者のプライバシーのある空間と認識し、居室への入室の際に、職員はノックや声かけをしてから入室するとともに、不在時にも、事前にシーツ交換などで入室することを伝えて、利用者にて了承を得た上で、入室することができている。		
		b	職員は、排泄時や入浴時には、不安や羞恥心、プライバシー等に配慮しながら介助を行っている。	○	羞恥心や不安感、あるいはプライバシーに配慮しながら行っている。	/	/	/		/	
		c	職員は、居室は利用者専用の場所であり、プライバシーの場所であることを理解し、居室への出入りなど十分配慮しながら行っている。	○	居室への入室時にはお声掛けやノック、フロアにいる際には、お声掛けしている。	/	/	/		◎	
		d	職員は、利用者のプライバシーの保護や個人情報漏えい防止等について理解し、遵守している。	○	入社時にも個人情報保護の誓約書を書いている。	/	/	/		/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
11	ともに過ごし、支え合う関係	a	職員は、利用者を介護される一方の立場におかず、利用者に助けってもらったり教えてもらったり、互いに感謝し合うなどの関係性を築いている。	○	日頃のコミュニケーションの中で学ぶ機会も多く、軽作業等も手伝っていただいている。	/	/	/	同じテーブルで食事をする際に、他の利用者の食べこぼしを気にして、注意する利用者があり、職員は席を移動するなどの対応をしている。時には、きつい口調で話す利用者の様子も見られ、職員が早期に間に入って仲介するなど、利用者同士と一緒に穏やかな生活が送れるよう支援している。また、ムードメーカー的な役割を担う男性利用者もおり、場を盛り上げてくれることもあり、職員は大いに助かっている。職員の聞き取りから、「日々の会話の中で、利用者から個別に希望を聞くことに努めている」などの話が聞かれ、利用者により寄り添う支援を心がけている様子をうかがうことができた。
		b	職員は、利用者同士がともに助け合い、支え合って暮らしていくことの大切さを理解している。	○	共同生活であることの意味を理解し、支え合うことの大切さも理解している。	/	/	/	
		c	職員は、利用者同士の関係を把握し、トラブルになったり孤立したりしないよう、利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。(仲の良い利用者同士が過ごせる配慮をする、孤立しがちな利用者が交わる機会を作る、世話役の利用者にうまく力を発揮してもらつ場面をつくる等)。	△	フロアの配席を変更したり、聞き上手な利用者様にも助けていただきながら、大きなトラブルに発展しないよう、工夫している。	/	/	○	
		d	利用者同士のトラブルに対して、必要な場合にはその解消に努め、当事者や他の利用者に不安や支障を生じさせないようにしている。	○	利用者様同士の相性の把握等、不安感やトラブルとならないよう、スタッフがサポートしている。	/	/	/	
12	馴染みの人や場との関係継続の支援	a	これまで支えてくれたり、支えてきた人など、本人を取り巻く人間関係や馴染みの場所などについて把握している。	○	入居時の聞き取りや担当CMがいる場合には、情報を提供していただくことで、把握している。	/	/	/	
		b	知人や友人等が気軽に訪れたり、本人が知人や友人等に会いに行ったり、馴染みの場所に出かけていたりなど、これまで大切にしてきた人や場所との関係が途切れないよう支援している。	○	馴染みの美容室や協力病院以外のかかりつけ医等、なじみの暮らしが継続できるよう、努めている。	/	/	/	
13	日常的な外出支援	a	利用者(および意思表示が困難な場合はご家族)の希望に沿って、戸外に出かけられるよう取り組んでいる。(職員側の都合を優先したり、外出する利用者、時間帯、行き先などが固定化していない) (※重度の場合は、戸外に出て過ごすことも含む)	○	天候等を見ながら外出ドライブをして気分転換となるよう、努めている。	△	×	○	コロナ禍や感染対策が続き、外出制限が設けられ、徐々に緩和されているが、家族との外出は禁止された状態が続いている。天気の良い日には、屋外やベランダに出て外気浴をしたり、事業所周辺を散歩したりすることができている。また、ユニットごとに2台のワゴン車を活用して、季節の花や海の絶景などを見に行ったり、利用者と一緒に外出に出かけたりするなど、気分転換を図れるよう支援している。
		b	家族、地域の人やボランティア、認知症サポーター等の協力も得ながら、外出支援をすすめている。	○	馴染みの美容室や法事等はご家族の支援による。	/	/	/	
14	心身機能の維持、向上を図る取り組み	a	職員は認知症や行動・心理症状について正しく理解しており、一人ひとりの利用者の状態の変化や症状を引き起こす要因をひもとき、取り除くケアを行っている。	○	日々のケアの中で、状態や症状の変化を引き起こす要因を回避しながら支援している。	/	/	/	事業所として、アセスメントなどで、利用者のできることやできそうなことを把握し、自分でできる洗濯物たたみや編み物、テーブル拭き、モップ掛けなどをしてもらい、職員は見守りや待つ介護を心がけた支援に努めている。また、日課で午前中に歌を歌ったり、体操を実施したりするなど、活発な活動を行い、少しでも利用者の心身機能の維持を図れるよう支援している。訪問調査日には、職員の弾きピアノに合わせて、利用者が一緒に笑顔で歌を歌う様子を見ることができた。
		b	認知症の人の身体面の機能低下の特徴(筋力低下・平衡感覚の悪化・排泄機能の低下・体温調整機能の低下・嚥下機能の低下等)を理解し、日常生活を営む中で自然に維持・向上が図れるよう取り組んでいる。	○	毎日の暮らしの中で、ADLの維持・向上が望めるよう、軽作業やレクリエーション、体操等に取り組んでいる。	/	/	/	
		c	利用者の「できること、できそうなこと」については、手や口を極力出さずに見守ったり一緒に行うようにしている。(場面づくり、環境づくり等)	△	スタッフによっては、手や口を出してしまう者もいるのが現状である。	◎	/	○	
15	役割、楽しみごと、気晴らしの支援	a	利用者一人ひとりの生活歴、習慣、希望、有する力等を踏まえて、何が本人の楽しみごとや役割、出番になるのかを把握している。	○	日頃のかかわりの中でコミュニケーションや軽作業を通じて役割や楽しみが創出できるよう、努めている。	/	/	/	洗濯物たたみや下膳、テーブル拭き、清掃など、職員は声をかけ、利用者のできることや得意な役割を担ってもらえるよう支援している。中には、世話好きの利用者もおり、他の利用者に励ましの声をかけたり、下膳や車いすを押すのを手伝ったりする利用者もいる。また、毎月壁面の作品づくりが行われ、テーマを決めて利用者が作成し、出来あがった作品を見て、やりがいや達成感を味わえるようにしている。さらに、外出に出かけ、利用者の気晴らしや楽しみに繋がっている。
		b	認知症や障害のレベルが進んでも、張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、日常的に、ホームの内外で一人ひとりの楽しみごとや役割、出番をつくる取り組みを行っている。	△	ホーム外での張り合いや喜びのある支援が出来ているとは言い難い。	◎	◎	○	

項目 No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
16	身だしなみやおしゃれの支援	a	身だしなみを本人の個性、自己表現の一つととらえ、その人らしい身だしなみやおしゃれについて把握している。	○	その人らしい身だしなみを把握して大切にするとともにあまりにも季節感とかけ離れている場合には、助言している。				衣類の汚れや整容の乱れが見られた場合には、職員が少し離れた場所でさりげなく声をかけてフォローをしたり、居室等に移動して着替えてもらったりするなどの対応をしている。認知症状の進行に伴い、着替えなどを利用者無理強いできない場合もあり、職員が見守りをして対応することもある。また、定期的に訪問理美容の来訪があり、好みの髪型に整えるとともに、中には、馴染みの美容室に出かける利用者もいる。起床時に、化粧をして口紅を差したり、ヘアウイッグを使用したりするなど、おしゃれを楽しむ利用者もいる。外出時に、男性利用者はひげを剃ったり、着る服やバックを選んだりすることのできる利用者もいる。さらに、重度の利用者にも、家族の協力を得ながら好みの服を着てもらったりなど、本人らしさが継続できるような支援にも努めている。
		b	利用者一人ひとりの個性、希望、生活歴等に応じて、髪形や服装、持ち物など本人の好みに整えられるように支援している。	○	服装や装飾品等、馴染みのもので整えられるよう、支援している。				
		c	自己決定がしにくい利用者には、職員と一緒に考えたりアドバイスする等本人の気持ちにそって支援している。	○	自己決定が難しい利用者様には、選択制にする等により、本人様の意向に沿えるよう努めている。				
		d	外出や年中行事等、生活の彩りにあわせたその人らしい服装を楽しめるよう支援している。	○	外出時や行事等、その人らしさにあった服装となるよう、支援している。				
		e	整容の乱れ、汚れ等に対し、プライドを大切にできたりさりげなくカバーしている。(髭、着衣、履き物、食べこぼし、口の周囲等)	○	整容や汚れがある場合は、さりげなく促したり、お声掛けすることで、自尊心が傷つかないよう配慮している。	◎	◎	◎	
		f	理容・美容は本人の望む店に行けるよう努めている。	△	特に拘りのない利用者様には訪問美容室で対応している。				
		g	重度な状態であっても、髪形や服装等本人らしさが保てる工夫や支援を行っている。	○	重度な状態であっても、その人らしさが保てるよう、支援している。			○	
17	食事を楽しむことのできる支援	a	職員は、食事の一連のプロセスの意味や大切さを理解している。	○	理解している。				事業所では、昼食と夕食は宅配弁当を利用し、事業所で炊飯を行い、利用者に食事を提供している。朝食は、宅配弁当の業者には、利用者のアレルギーの有無や苦手な食材を伝えて代替の食材を用意してもらうとともに、献立に偏りがないように打ち合わせをすることができている。以前は、調理専属の職員がキッチンで手作りの食事を調理することができていたが、職員の不足や人員配置の状況に応じて、代表者と管理者が地産地消で食材を使用する地元の業者を選定している。弁当容器も、通常の食器の方が食べやすくなる利用者には、食器での提供の対応をしている。なでしこユニットでは、食器や箸を入居時に使い慣れた物を持ってきてもらったり、誕生日にプレゼントされた湯飲みや箸を使用したりしている。食事のペースを調整しにくい利用者には、誤嚥を予防するために小分けにするなどの工夫が行われている。また、少しでも食事が楽しめるように、外食を取り入れたり、行事の際に、巻き寿司やいなり寿司、うどんを利用者と一緒に調理したりしている。誕生日には、プリンやケーキのデコレーションを行って提供し、利用者に喜ばれている。重度な食事介助を要する利用者が増加し、食事の際に、職員は見守りやサポートを行い、利用者と別々の時間帯に食事を摂っている。食べることが困難になった利用者には、おかゆやムース食を用意するなど、利用者に合わせて、段階的に食べやすい食事の形態に対応をしている。食事の際に、弁当容器の下にランチョンマットを使用することで、食事の雰囲気づくりをしている。また、栄養士からの助言をもらうことができているものの、栄養バランスやバイタル、BMIを確認し、医師に情報を提供した上で、アドバイスをもらうこともある。利用者の生活を継続するという意味で現状の対応は否めないが、視点を忘れずに継続した検討が行われていくことも期待される。
		b	買い物や献立づくり、食材選び、調理、後片付け等、利用者とともにやっている。	△	後片付けに取り組んでいただいている。				
		c	利用者とともに買い物、調理、盛り付け、後片付けをする等を行うことで、利用者の力の発揮、自信、達成感につなげている。	○	食後の後片付けやテーブル拭き等に参加いただくことで、自信や達成感につなげている。				
		d	利用者一人ひとりの好きなものや苦手なもの、アレルギーの有無などについて把握している。	○	入居時の聞き取りや暮らしの中での嗜好の変化により把握している。				
		e	献立づくりの際には、利用者の好みや苦手なもの、アレルギー等を踏まえつつ、季節感を感じさせる旬の食材や、利用者にとって昔なつかしいもの等を取り入れている。	△	アレルギー等を選けたものになっている。行事の際のおやつ等、季節感を感じられるものになっている。			○	
		f	利用者一人ひとりの咀嚼・嚥下等の身体機能や便秘・下痢等の健康状態にあわせた調理方法としつつ、おいしそうな盛り付けの工夫をしている。(安易にミキサー食や刻み食で対応しない、いろどりや器の工夫等)	△	嚥下機能により、とろみや刻み食で対応している。				
		g	茶碗や湯飲み、箸等は使い慣れたもの、使いやすいものを使用している。	○	茶碗や湯呑は馴染みのものを使用されている。			○	
		h	職員も利用者と同じ食卓を囲んで食事を一緒に食べながら一人ひとりの様子を見守り、食事のペースや食べ方の混乱、食べこぼしなどに対するサポートをさりげなく行っている。	△	支援が必要な方が多く、一緒に食べることは難しい。			○	
		i	重度な状態であっても、調理の音やにおい、会話などを通して利用者が食事が待ち遠しくおいしく味わえるよう、雰囲気づくりや調理に配慮している。	△	食材によっては出来ている。	◎		○	
		j	利用者一人ひとりの状態や習慣に応じて食べれる量や栄養バランス、カロリー、水分摂取量が1日を通じて確保できるようにしている。	○	状態に応じて栄養や水分を摂取できるよう、努めている。				
		k	食事量が少なかったり、水分摂取量の少ない利用者には、食事の形態や飲み物の工夫、回数やタイミング等工夫し、低栄養や脱水にならないよう取り組んでいる。	○	毎日の食事量や水分量を把握することで、低栄養や脱水とならないよう、努めている。				
		l	職員で献立のバランス、調理方法などについて定期的に話し合い、偏りがないように配慮している。場合によっては、栄養士のアドバイスを受けている。	×	外注なので難しい。			○	
		m	食中毒などの予防のために調理用具や食材等の衛生管理を日常的に行い、安全で新鮮な食材の使用と管理に努めている。	○	次亜塩素水で消毒し、清潔保持に努めている。				

項目 No.	評価項目	小項目	内容	自己 評価	判断した理由・根拠	家族 評価	地域 評価	外部 評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
18	口腔内の清潔保持	a	職員は、口腔ケアが誤嚥性肺炎の防止につながることを知っており、口腔ケアの必要性、重要性を理解している。	○	理解している。	/	/	/	月1回歯科医の往診があるほか、歯科衛生士から指導やアドバイスをもらうなど、職員は口腔ケアの重要性を理解している。毎食後に、職員は声をかけ、利用者は歯磨きなどの口腔ケアを実施するとともに、必要に応じて、見守りやサポートをしている。職員は介助や磨き残しなどのサポートをしながら、口腔内の状況の把握に努めている。義歯は夜間に預かり、消毒液に浸けるなどの清潔保持に努めている。また、訴えのほか、口腔内に異常が見られた場合には家族に相談し、早期の歯科医の受診に繋げている。
		b	利用者一人ひとりの口の中の健康状況(虫歯の有無、義歯の状態、舌の状態等)について把握している。	○	把握している。	/	/	○	
		c	歯科医や歯科衛生士等から、口腔ケアの正しい方法について学び、日常の支援に活かしている。	○	歯科医師や衛生士より助言を受けている。	/	/	/	
		d	義歯の手入れを適切に行えるよう支援している。	○	食後のケアや就寝前には洗浄している。	/	/	/	
		e	利用者の力を引き出しながら、口の中の汚れや臭いが生じないよう、口腔の清潔を日常的に支援している。(歯磨き・入れ歯の手入れ・うがい等の支援、出血や炎症のチェック、歯科医の受診等)	○	口腔内に残渣物がないよう、努めている。	/	/	○	
19	排泄の自立支援	a	職員は、排泄の自立が生きる意欲や自信の回復、身体機能を高めることにつながることや、おむつ(紙パンツ・パッドを含む)の使用が利用者の心身に与えるダメージについて理解している。	△	トイレで排せつされるよう支援しているが、本人様やご家族の希望や意向により使用する場合もある。	/	/	/	事業所では排泄チェック表を利用して、利用者の排泄パターンを把握し、定期的なトイレ誘導のほか、個別に声をかけるなどの支援をしている。トイレで利用者が排泄できることを基本とした支援に努めているが、利用者の排泄状況に応じて、中には、夜間にポータブルトイレを使用している利用者もいる。こまめな声かけやトイレ誘導をすることにより、布パンツを履いて過ごすことのできている2名の利用者があるものの、ほとんどの利用者は紙パンツやパッドを使用している。また、適切な排泄用品をミーティングの中で話し合い、家族に相談した上で、使用や変更を検討している。さらに、現在は、下剤を服用している利用者はおらず、ヨーグルトなどの乳製品を摂取したり、体操を取り入れたりするなど、自然な排便ができるようにコントロールすることができている。
		b	職員は、便秘の原因や及ぼす影響について理解している。	○	理解している。	/	/	/	
		c	本人の排泄の習慣やパターンを把握している。(間隔、量、排尿・排便の兆候等)	○	1日のケア記録等を活用することで、把握している。	/	/	/	
		d	本人がトイレで用を足すことを基本として、おむつ(紙パンツ・パッドを含む)使用の必要性や適切性について常に見直し、一人ひとりのその時々状態にあった支援を行っている。	○	トイレでの排せつを基本としている。	◎	/	◎	
		e	排泄を困難にしている要因や誘因を探り、少しでも改善できる点はないか検討しながら改善に向けた取り組みを行っている。	○	服薬状況や身体状況等をその都度確認し、改善に努めている。	/	/	/	
		f	排泄の失敗を防ぐため、個々のパターンや兆候に合わせて早めの声かけや誘導を行っている。	○	排せつパターンを把握し、早めのお声掛けや誘導に努めている。	/	/	/	
		g	おむつ(紙パンツ・パッドを含む)を使用する場合は、職員が一方的に選択するのではなく、どういう時間帯にどのようなものを使用するか等について本人や家族と話し合い、本人の好みや自分で使えるものを選択できるよう支援している。	○	オムツ類を使用する場合は、スタッフの決めつけでなく、本人様の希望やご家族の意向も考慮している。	/	/	/	
		h	利用者一人ひとりの状態に合わせて下着やおむつ(紙パンツ・パッドを含む)を適時使い分けている。	○	利用者様一人ひとりに合わせて使い分けている。	/	/	/	
		i	飲食物の工夫や運動への働きかけなど、個々の状態に応じて便秘予防や自然排便を促す取り組みを行っている。(薬に頼らない取り組み)	○	ヨーグルトや牛乳等を活用することで、自然排便となるよう、努めている。	/	/	/	
20	入浴を楽しむことができる支援	a	曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、利用者一人ひとりの希望や習慣にそって入浴できるよう支援している。(時間帯、長さ、回数、温度等)。	○	可能な限り、要望に沿ったものとしている。	◎	/	○	浴室には一般浴槽が設置されているが、重度化に伴い、湯船に浸かることが難しい利用者が多く、シャワー浴や足浴で対応することが多くなっている。利用者の希望に応じて、湯の温度や量の調整をするなど、柔軟に対応をしている。また、毎日の入浴を可能としているが、現在は希望する利用者はおらず、週3回程度、利用者の入浴を支援している。さらに、季節に応じて、ゆず湯にしたり、自分のシャンプーや石鹸を使用したりするなど、少しでも入浴が楽しめるように工夫をしている。
		b	一人ひとりが、くつろいだ気分で入浴できるよう支援している。	○	くつろいで入居できるよう、努めている。	/	/	/	
		c	本人の力を活かしながら、安心して入浴できるよう支援している。	○	できる限りご自身で洗身されるよう、支援している。	/	/	/	
		d	入浴を拒む人に対しては、その原因や理由を理解しており、無理強いせずに気持ち良く入浴できるよう工夫している。	○	お声掛け方法やタイミング等を工夫している。	/	/	/	
		e	入浴前には、その日の健康状態を確認し、入浴の可否を見極めるとともに、入浴後の状態も確認している。	○	バイタルチェック等により体調や状態の把握に努めている。	/	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
21	安眠や休息の支援	a	利用者一人ひとりの睡眠パターンを把握している。	○	日々のケアにより把握している。	/	/	/	事業所には現在眠剤等を服用している利用者はおらず、日中に散歩や体操を取り入れるなど、夜間に利用者が良眠できるよう支援している。また、夜間は寝巻に着替えて就寝してもらうなど、メリハリのある生活が送れるよう支援している。また、居室の灯の明るさを調整できるようになっているほか、点灯を紐式リモコンの両方を使用することができるようにしている。認知症状の進行により、紐が付いていることに混乱する利用者には、紐を取り外す対応をしている。
		b	夜眠れない利用者についてはその原因を探り、その人本来のリズムを取り戻せるよう1日の生活リズムを整える工夫や取り組みを行っている。	○	あまり眠れない利用者様には、日中の活動量を増やしたりすることで、生活リズムが整うよう、努めている。	/	/	/	
		c	利用者の数日間の活動や日中の過ごし方、出来事、支援内容などを十分に検討し、医師とも相談しながら総合的な支援を行っている。	○	安易に睡眠導入剤を使用しないよう、努めている。	/	/	/	
		d	休息や昼寝等、心身を休める場が個別に取れるよう取り組んでいる。	○	傾眠や疲れた表情が見られる際には、お声掛けにより居室で休んでいただくよう、促している。	/	/	/	
22	電話や手紙の支援	a	家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	○	電話の要望がある方に支援している。携帯電話を持たれている方もおられる。	/	/	/	
		b	本人が手紙が書けない、電話はかけられないと決めつけず、促したり、必要な手助けをする等の支援を行っている。	△	こちらから促してはいない。	/	/	/	
		c	気兼ねなく電話できるよう配慮している。	△	気兼ねなく会話できるよう、フロアとは別空間で対応している。	/	/	/	
		d	届いた手紙や葉書をそのままにせず音信がとれるように工夫している。	○	本人様にお渡しして必要な場合は、代読している。	/	/	/	
		e	本人が電話をかけることについて家族等に理解、協力してもらうとともに、家族等からも電話や手紙をくれるようお願いしている。	○	入居時に聞き取りをして協力をお願いしている。	/	/	/	
23	お金の所持や使うことの支援	a	職員は本人がお金を所持すること、使うことの意味や大切さを理解している。	○	所持される方には、入居時に紛失するリスクがあることを説明している。	/	/	/	
		b	利用者が気兼ねなく安心して買い物ができるよう、日頃から買い物先の理解や協力を得る働きかけを行っている。	○	買い物先でなく、外食先であれば行っている。	/	/	/	
		c	「希望がないから」「混乱するから」「失くすから」などと一方的に決めてしまうのではなく、家族と相談しながら一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	○	そのように対応している。	/	/	/	
		d	お金の所持方法や使い方について、本人や家族と話し合っている。	○	行えている。	/	/	/	
		e	利用者が金銭の管理ができない場合には、その管理方法や家族への報告の方法などルールを明確にしており、本人・家族等の同意を得ている。(預り金規程、出納帳の確認等)。	○	同意を得ている。	/	/	/	
24	多様なニーズに応える取り組み		本人や家族の状況、その時々ニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	○	お試しや生活保護への対応等、柔軟に対応している。	○	/	◎	感染対策が続き、家族との外食に制限を設けているが、冠婚葬祭などの参加で、別室で食事ができる場合には、許可を出すこともある。また、利用者や家族から出された要望には、可能な範囲で柔軟な対応に努めている。時には、通販の購入を希望する利用者職員が手助けをして、月末等に家族に精算払いをもらったり、週末に教会に行きたい利用者の送迎をしたりすることもある。
(3)生活環境づくり									
25	気軽に入れる玄関まわり等の配慮		利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、気軽に入ることができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。	○	植栽をしたり、気軽に立ち寄れる環境づくりに努めている。	○	◎	○	今治港や今治城の近くにある3階建ての建物は、交差点の角にあり、道路沿いからすぐ入れることもあり、植栽が植えられるなど、地域住民も立ち寄りやすい雰囲気となっている。自動ドアの内側にはベンチが置かれ、近隣住民が座ってひと休みすることもある。

項目 No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
26	居心地の良い共用空間づくり	a	共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、家庭的な雰囲気有しており、調度や設備、物品や装飾も家庭的で、住まいとしての心地良さがある。(天井や壁に子供向けの飾りつけをしていたり、必要なものしか置いていない殺風景な共用空間等、家庭的な雰囲気をそぐような設えになっていないか等。)	○	季節が感じられるような飾り付けをしている。	○	○	○	感染対策で、訪問調査日には事業所内を見学することはできなかったが、テラスより窓越しに室内を見ることができ、リビングは各居室とキッチンに囲まれるような構造で、テーブル席と大きなソファが置かれ、利用者が職員のピアノの伴奏に合わせて、歌を歌う様子が見られた。また、程よい高さの畳スペースが設けられ、設置された手すりのある階段から上がることができ、体操する際に職員がお手本を見せる場所として使用されている。共用スペースは清掃が行き届き、壁面の作品から季節を感じることができる。落ち着ける空間となっているが、認知症状の進行した利用者の混乱をさけるために、手の届くところに馴染みの物や生活用品は少なく、必要に応じて職員が提供をしている。
		b	利用者にとって不快な音や光、臭いがないように配慮し、掃除も行き届いている。	○	換気や調光に配慮し、不快な空間とならないよう努めている。	/	/	○	
		c	心地よさや能動的な言動を引き出すために、五感に働きかける様々な刺激(生活感や季節感を感じるもの)を生活空間の中に採り入れ、居心地よく過ごせるよう工夫している。	○	季節感がわかるような飾り付けや献立、季節行事を取り入れている。	/	/	○	
		d	気の合う利用者同士で思い思いに過ごせたり、人の気配を感じながらも独りになれる居場所の工夫をしている。	○	気の合う利用者様同士で話されたり、一人で過ごされたい時には、自室で少しドアを開けて過ごされてはどうか助言している。	/	/	/	
27	居心地良く過ごせる居室の配慮		本人や家族等と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	○	入居時に使い慣れたものや馴染みのものを持参いただいている。	○	/	○	居室にはベッドや収納が用意されている。利用者は、使い慣れた物や馴染みの物を持ち込むことができるが、すっきりと片づけられた居室も多い。また、家族の要望から、写真などを配置している利用者もいる。
28	一人ひとりの力が活かせる環境づくり	a	建物内部は利用者一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、混乱や失敗を防ぎ、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように配慮や工夫をしている。	○	トイレや浴室は分かりやすい工夫と手すりの配置により、自立した生活を送れるよう、配慮している。	/	/	○	建物内部の写真を見ることができ、清潔で車いすの利用者も利用しやすいトイレや浴室が設置されている。廊下等には手すりが設置され、利用者が移動しやすいように動線が確保されている。また、居室やトイレの場所が認識しやすいように、分かりやすい表示を付けたたり、人形などを使用して目印を付ける工夫をしている。利用者が混乱や失敗しないことを優先する環境づくりに留まることなく、利用者の生活が豊かになる環境づくりに着目した支援の検討が行われることも期待される。
		b	利用者の活動意欲を触発する馴染みの物品が、いつでも手に取れるように生活空間の中にさりげなく置かれている。(ぼうき、裁縫道具、大工道具、園芸用品、趣味の品、新聞・雑誌、ポット、急須・湯飲み・お茶の道具等)	○	新聞や雑誌等、手に取れるように配慮している。	/	/	/	
29	鍵をかけないケアの取り組み	a	代表者及び全ての職員が、居室や日中にユニット(棟)の出入り口、玄関に鍵をかけることの弊害(鍵をかけられ出られない状態で暮らしていることの異常性、利用者にもたらす心理的不安や閉塞感・あきらめ・気力の喪失、家族や地域の人にもたらす印象のデメリット等)を理解し、日中は玄関に鍵をかけなくても済むように工夫している。(外出の察知、外出傾向の把握、近所の理解・協力の促進等)	○	建物出入口は日中施錠していない	×	○	○	日中に、建物の1階にある出入り口は施錠をしておらず、防犯のために、19時から7時まで施錠をしている。感染対策もあり、2階と3階に上がることを制限している。エレベーターを上がると、各ユニットに入るエレベーターホールがあり、ユニットの入り口の施錠は行われていない。外に出ようとする利用者がある場合には、職員間で鍵をかけない対応を話し合い、支援方針を決定するなど、鍵をかけることの利用者の弊害だけでなく、職員間での支援の向き合い方にも影響すると考えられ、チーム体制で対応を検討している。
		b	鍵をかけない自由な暮らしについて家族の理解を図っている。安全を優先するために施錠を望む家族に対しては、自由の大切さと安全確保について話し合っている。	○	入居時に説明しているが、安全を優先するご家族しかいない。	/	/	/	
(4) 健康を維持するための支援									
30	日々の健康状態や病状の把握	a	職員は、利用者一人ひとりの病歴や現病、留意事項等について把握している。	○	日々の話し合いや申し送りにより把握に努めている。	/	/	/	
		b	職員は、利用者一人ひとりの身体状態の変化や異常のサインを早期に発見できるように注意しており、その変化やサインを記録に残している。	○	毎日のケアやバイタルチェックにより、何か変化があれば病院受診できるよう、努めている。	/	/	/	
		c	気になることがあれば看護職やかかりつけ医等にいつでも気軽に相談できる関係を築き、重度化の防止や適切な入院につなげる等の努力をしている。	○	気になる事、気付いた事は、かかりつけ医、訪問看護師等に相談し、重度化の予防や適切な入院に努めている。	/	/	/	
31	かかりつけ医等の受診支援	a	利用者一人ひとりのこれまでの受療状況を把握し、本人・家族が希望する医療機関や医師に受診できるよう支援している。	◎	協力医療機関以外のかかりつけ医も受診できる体制である。	◎	/	/	
		b	本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	◎	基本的には、ご家族様での受診をお願いしているが、同行が必要な場合や家族が遠方な場合には、スタッフで対応している。	/	/	/	
		c	通院の仕方や受診結果の報告、結果に関する情報の伝達や共有のあり方等について、必要に応じて本人や家族等の合意を得られる話し合いを行っている。	◎	合意を得ている。	/	/	/	

項目 No.	評価項目	小項目	内容	自己 評価	判断した理由・根拠	家族 評価	地域 評価	外部 評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
32	入退院時の医療機関との連携、協働	a	入院の際、特にストレスや負担を軽減できる内容を含む本人に関する情報提供を行っている。	◎	入院時には、医療機関への情報提供を行っている。	/	/	/	
		b	安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、日頃から病院関係者との情報交換や相談に努めている。	◎	定期的な聞き取り等により早期退院となるように努めている。	/	/	/	
33	看護職との連携、協働	a	介護職は、日常の関わりの中で得た情報や気づきを職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談している。看護職の配置や訪問看護ステーション等との契約がない場合は、かかりつけ医や協力医療機関等に相談している。	◎	日頃のかかわりの中で状態の変化や気になることがある場合には、主治医や訪問看護師へ相談し、適切な医療が受けられるよう、努めている。	/	/	/	
		b	看護職もしくは訪問看護師、協力医療機関等に、24時間いつでも気軽に相談できる体制がある。	◎	いつでも相談できる体制が整っている。	/	/	/	
		c	利用者の日頃の健康管理や状態変化に応じた支援が適切にできるよう体制を整えている。また、それにより早期発見・治療につなげている。	◎	健康管理や適切な治療に繋がるよう、努めている。	/	/	/	
34	服薬支援	a	職員は、利用者が使用する薬の目的や副作用、用法や用量について理解し、本人の状態の経過や変化などを記録し、家族や医師、看護職等に情報提供している。	◎	処方せんを確認して、理解している。	/	/	/	
		b	利用者一人ひとりが医師の指示どおりに服薬できるよう支援し、飲み忘れや誤薬を防ぐ取り組みを行っている。	◎	医師の指示通りに服薬できるよう、努めている。	/	/	/	
		c	服薬は本人の心身の安定につながっているのか、また、副作用(周辺症状の誘発、表情や活動の抑制、食欲の低下、便秘や下痢等)がないかの確認を日常的に行っている。	◎	副作用と思しき症状を確認した際には、速やかに服薬を中止し、医師に相談している。	/	/	/	
35	重度化や終末期への支援	a	重度化した場合や終末期のあり方について、入居時、または状態変化の段階ごとに本人・家族等と話し合いを行い、その意向を確認しながら方針を共有している。	○	状態が変化した場合は、その都度主治医やご家族等と相談しながら、意向の確認と方針を共有している。	/	/	/	事業所として、看取りの支援は実施しておらず、入居時に家族等に対応できることなどを説明するとともに、事業所の退去後の意向の確認も行われている。利用者にはそれぞれの主治医がおり、認知症状の進行や重度化した場合には、家族を含めて主治医と相談を行い、方針を共有して、転居などを支援している。認知症の進行は、服薬の見直しや入院による調整で対応できる場合もあり、可能な限り、事業所での生活が継続して送ることのできるよう、関係者や職員間で検討をしている。
		b	重度化、終末期のあり方について、本人・家族等だけでなく、職員、かかりつけ医・協力医療機関等関係者で話し合い、方針を共有している。	○	重度化した場合にその都度確認するようにしている。	○	/	○	
		c	管理者は、終末期の対応について、その時々職員の思いや力量を把握し、現状ではどこまでの支援ができるかを見極めを行っている。	○	終末期の対応については、入居時に説明を行うとともに医療行為が発生しない限りは支援している。	/	/	/	
		d	本人や家族等に事業所の「できること・できないこと」や対応方針について十分な説明を行い、理解を得ている。	○	入居時や重度化の都度、説明している。	/	/	/	
		e	重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、家族やかかりつけ医など医療関係者と連携を図りながらチームで支援していく体制を整えている。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。	○	可能な限り支えられるよう、努めている。	/	/	/	
		f	家族等への心理的支援を行っている。(心情の理解、家族間の事情の考慮、精神面での支え等)	◎	状態をこまめに報告することで、不安が軽減されるよう努めている。	/	/	/	
36	感染症予防と対応	a	職員は、感染症(ノロウイルス、インフルエンザ、白癬、疥癬、肝炎、MRSA等)や具体的な予防策、早期発見、早期対応策等について定期的に学んでいる。	○	各種マニュアルを活用し、予防に努めている。	/	/	/	
		b	感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、万が一、感染症が発生した場合に速やかに手順にそった対応ができるよう日頃から訓練を行うなどして体制を整えている。	○	感染症が発生した場合には、蔓延しないよう努めている。	/	/	/	
		c	保健所や行政、医療機関、関連雑誌、インターネット等を通じて感染症に対する予防や対策、地域の感染症発生状況等の最新情報を入手し、取り入れ、随時対応している。	○	各情報媒体を通じて感染症発生状況の把握に努めている。	/	/	/	
		d	職員は手洗いうがいがいなど徹底して行っており、利用者や来訪者等についても清潔が保持できるよう支援している。	○	手洗いうがいがい徹底だけでなく、マスクの着用もお願いしている。	/	/	/	

項目 No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
II. 家族との支え合い									
37	本人とともに支え合う家族との関係づくりと支援	a	職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽をともにし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	○	その時の状況によるが、通院や美容室への付き添い等、お願いしている。	/	/	/	毎月、利用者ごとの担当職員を中心に、介護支援計画の評価と利用者の暮らしの様子が分かりやすい現況報告書を作成するとともに、写真を添えて、家族向けのお便りを送付し、利用者の近況を伝えている。感染対策もあり、面会などに制限が設けられ、事業所内の入室のほか、家族との面会や外食は行われていない。家族から、誕生日にプレゼントが届けられるほか、敬老の日に手紙が届くこともあり、利用者は楽しみにしている。文字を読むことができない利用者には、職員が代読することもあり、家族にお礼の電話をかけることもある。管理者等は、「コロナ禍等で実施できなかった家族と一緒に支え合う関係を再構築していきたい」などと考え、家族の企画する外出支援のほか、家族同士の交流会も実施の検討をしている。今後は、少しずつ面会や外出の制限を緩和し、利用者や家族が望む対応に応じていくことも期待される。
		b	家族がホームでの活動に参加できるように、場面や機会を作っている。(食事づくり、散歩、外出、行事等、家族同士の交流)	○	通院や外出支援(美容室、法事等)には参加されている。	○	/	○	
		c	家族が知りたいことや不安に感じていること等の具体的内容を把握して、家族の来訪時や定期的な報告などにより、利用者の暮らしぶりや日常の様子を具体的に伝えている。(「たより」の発行・送付、メール、行事等の録画、写真の送付等)	◎	毎月、現況報告書に日頃や行事でのご様子、写真等を送付している。また、状態が変化した際には、その都度電話連絡している。	◎	/	◎	
		d	これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係を築いていけるように支援している。(認知症への理解、本人への理解、適切な接し方・対応等についての説明や働きかけ、関係の再構築への支援等)	△	面会も再開し、家族間のより良い関係作りができるよう、努めている。	/	/	/	
		e	事業所の運営上の事柄や出来事について都度報告し、理解や協力を得るようにしている。(行事、設備改修、機器の導入、職員の異動・退職等)	○	現況報告書や電話連絡等で報告している。	○	/	○	
		f	利用者一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている。	○	起こり得るリスクについては、入居時及びその都度(状態変化時等)お伝えし、対応策を検討している。	/	/	/	
		g	家族が、気がかりなことや、意見、希望を職員に気軽に伝えたり相談したりできるように、来訪時の声かけや定期的な連絡等を積極的に行うことで、居心地よく安心して過ごせるような雰囲気づくりや対応を行っている。(来やすい雰囲気、関係再構築の支援、湯茶の自由利用、居室への宿泊のしやすさ等)	○	面談時のお声掛けや電話連絡時等、意向や要望を気軽に伝えやすいよう、努めている。	/	/	○	
38	契約に関する説明と納得	a	契約の締結、解約、内容の変更等の際は、具体的な説明を行い、理解、納得を得ている。(食費、光熱水費、その他の自己負担額、敷金設定の場合の償却、返済方法等)	◎	契約の際に十分な説明を行い、同意を得ている。	/	/	/	
		b	退居については、契約に基づくとともにその決定過程を明確にし、利用者や家族等に具体的な説明を行った上で、納得のいく退居先に移れるように支援している。退居事例がない場合は、その体制がある。	◎	契約時及び改定時には、説明を行い、同意を得ている。	/	/	/	
III. 地域との支え合い									
39	地域とのつきあいやネットワークづくり ※文言の説明 地域:事業所が所在する市町の日常生活圏、自治会エリア	a	地域の人に対して、事業所の設立段階から機会をつくり、事業所の目的や役割などを説明し、理解を図っている。	○	開設時の内覧会や地域ケア会議への参加等により、理解を図れるよう、努めている。	/	◎	/	コロナ禍や感染対策もあり、積極的に地域との交流を図ることはできていない。隣接する同法人のグループホームの1階部分に「メモリーえくぼ」というカフェがあり、管理者等は、「地域とのネットワークづくりの環境を再開したい」と考えている。法人の会長が自治会に開設当初から加入し、継続をしている。地域住民の高齢化や過疎化が進行するとともに、企業が多いことなどの条件が重なり、自治会活動は活発には行われていなかったが、令和5年の秋祭りから、地域の神輿や子どもの来訪が再開され、駐車場のスペースを活用して交流をしている。
		b	事業所は、孤立することなく、利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、地域の人たちに対して日頃から関係を深める働きかけを行っている。(日常的なあいさつ、町内会・自治会への参加、地域の活動や行事への参加等)	△	自治会への参加や地方祭への参加等、行えている。	/	x	○	
		c	利用者を見守ったり、支援してくれる地域の人たちが増えている。	x	そうは思わない。	/	/	/	
		d	地域の人が気軽に立ち寄り遊びに来たりしている。	x	時折、相談や訪ねて来られる方はいる。	/	/	/	
		e	隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらうなど、日常のおつきあいをしている。	△	外出時や散歩時に挨拶を交わす程度である。	/	/	/	
		f	近隣の住民やボランティア等が、利用者の生活の拡がりや充実を図ることを支援してくれるよう働きかけを行っている。(日常的な活動の支援、遠出、行事等の支援)	x	ボランティアの依頼が来ないので受入れもしていない。	/	/	/	
		g	地域の人たちや周辺地域の諸施設からも協力を得て、安全で豊かな暮らしができるよう、日頃から理解を拡げる働きかけや関係を深める取り組みを行っている(公民館、商店・スーパー・コンビニ、飲食店、理美容店、福祉施設、交番、消防、文化・教育施設等)。	△	地域ケア会議には、毎回参加している。	/	/	/	

項目 No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
40	運営推進会議を活かした取り組み	a	運営推進会議には、毎回利用者や家族、地域の人等の参加がある。	○	現在は、家族の参加はない	×	/	△	感染対策もあり、運営推進会議は書面開催が続いていたが、令和6年3月の会議から集合形式の会議が開催できるようになっている。参加メンバーには、電話で会議の開催案内をお知らせしている。書面開催時にも、参加メンバーに要望や意見を書く様子を配布していたが、意見が出されていない状況となっており、家族に参加への理解を促したり、家族の意見を取り入れるために情報提供をしたり、事業所運営に関する関係者、学校や近隣企業に参加協力を依頼するなど、有意義な会議としていくような工夫が行われることも期待される。また、会議の中で、サービスの評価結果の重要性、評価内容をしっかりと伝えていくことも望まれる。
		b	運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況(自己評価・外部評価の内容、目標達成計画の内容と取り組み状況等)について報告するとともに、会議で出された意見や提案等を活かした結果等も報告し、議事録を公表している。	○	報告している。	/	○	○	
		c	テーマに合わせて参加メンバーを増やしたり、メンバーが出席しやすい日程や時間帯について配慮・工夫をしている。	×	メンバーは変わらない。	/	-	/	
IV.より良い支援を行うための運営体制									
41	理念の共有と実践	a	地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、代表者、管理者、職員は、その理念について共通認識を持ち、日々の実践が理念に基づいたものになるよう日常的に取り組んでいる。	○	理念に沿ったケアができるよう、努めている。	/	/	/	
		b	利用者、家族、地域の人たちにも、理念をわかりやすく伝えている。	○	分かりやすい理念としている。	○	×	/	
42	職員を育てる取り組み ※文言の説明 代表者:基本的には運営している法人の代表者であり、理事長や代表取締役が該当するが、法人の規模によって、理事長や代表取締役をその法人の地域密着型サービス部門の代表者として扱うのは合理的ではないと判断される場合、当該部門の責任者などを代表者として差し支えない。したがって、指定申請書に記載する代表者と異なることはありうる。	a	代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、計画的に法人内外の研修を受けられるよう取り組んでいる。	○	各ユニットの主任が研修に参加し、ミーティング等で共有している。	/	/	/	代表者と管理者は、利用者や職員といつでも話やすく、キャリアアップ制を取り入れるなど、働きやすい環境整備に努めている。以前は、定期的に職員と面談をすることができていたが、日常的に相談しやすく、その必要性が低いために現在は面談を実施していない。また、職員の休みの希望などを可能な範囲で取り入れて、勤務シフトを作成するようにしている。また、事業所内で勉強会を実施し、職員のスキルアップに努めているが、感染対策もあり、外部研修までに参加する機会は少なくなっている。さらに、職員のストレス軽減が、利用者の生活の質を向上させるケアへのモチベーションに繋がることを重要視して、傾聴だけに留まらず、職員に対してのさらなる働きやすい環境整備が行われていくことも期待される。
		b	管理者は、OJT(職場での実務を通して行う教育・訓練・学習)を計画的に行い、職員が働きながらスキルアップできるよう取り組んでいる。	○	働きながら研修への参加や資格が取得しやすいよう、シフト調整等の配慮に努めている。	/	/	/	
		c	代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	○	働きやすい環境づくりに努めている。	/	/	/	
		d	代表者は管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互研修などの活動を通して職員の意識を向上させていく取り組みをしている。(事業者団体や都道府県単位、市町単位の連絡会などへの加入・参加)	×	今治市グループホーム協会に参加していたが、現在は活動休止となっている。	/	/	/	
		e	代表者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。	○	日頃の声掛けや個人的な相談等、行えている。	○	○	○	
43	虐待防止の徹底	a	代表者及び全ての職員は、高齢者虐待防止法について学び、虐待や不適切なケアに当たるのは具体的にどのような行為なのかを理解したうえで、これらが見逃ごされることがないように注意を払い、発見した場合の対応方法や手順についても理解している。	○	定期的なミーティングや研修への参加等により、理解を深めている。	/	/	○	不適切な言動を発見した場合には、管理者等が該当職員に声をかけて事実の確認をしている。また、ミーティングを活用して、不適切な言動の状況の報告や支援内容の提案などを行い、チーム体制で情報を共有するとともに、主任会の中でも、再発防止に向けた情報共有が行われている。また、愛媛県社会福祉士会が実施する虐待防止研修に参加するとともに、職員は伝達講習を行っている。さらに、虐待防止チェックシートを活用して、職員の振り返りが行われている。
		b	管理者は、職員とともに日々のケアについて振り返ったり話し合ったりする機会や場をつくっている。	○	ミーティング等で話し合う場を設けている。	/	/	/	
		c	代表者、管理者は職員の疲労やストレスが利用者へのケアに影響していないか日常的に注意を払い、点検している。	○	ストレスチェックやシフトの調整等で配慮している。	/	/	/	
44	身体拘束をしないケアの取り組み	a	代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」や「緊急やむを得ない場合」とは何かについて正しく理解している。	○	正しく理解している。	/	/	/	
		b	どのようなことが身体拘束に当たるのか、利用者や現場の状況に照らし合わせて点検し、話し合う機会をつくっている。	○	話し合う機会を設け、理解している。	/	/	/	
		c	家族等から拘束や施錠の要望があっても、その弊害について説明し、事業所が身体拘束を行わないケアの取り組みや工夫の具体的な内容を示し、話し合いを重ねながら理解を図っている。	○	理解を図るよう、努めている。	/	/	/	

項目 No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
45	権利擁護に関する制度の活用	a	管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学び、それぞれの制度の違いや利点などを理解したうえで、利用者や家族の現状を踏まえ、パンフレット等の情報提供や相談に乗る等の支援を行っている。	○	実際に活用している。こちらの勧めにより活用された方もいる。	/	/	/	
		b	支援が必要な利用者が制度を利用できるよう、地域包括支援センターや専門機関(社会福祉協議会、後見センター、司法書士等)との連携体制を築いている。	○	相談に乗ったり、然るべき機関へつなげている	/	/	/	
46	急変や事故発生時の備え・事故防止の取り組み	a	怪我、骨折、発作、のど詰まり、意識不明等利用者の急変や事故発生時に備えて対応マニュアルを作成し、周知している。	○	マニュアルや緊急時の対応について、話し合っている。	/	/	/	
		b	全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	○	定期的に話し合い実践力を身に付けている。	/	/	/	
		c	事故が発生した場合の事故報告書はもとより、事故の一步手前の事例についてもヒヤリハットにまとめ、職員間で検討するなど再発防止に努めている。	○	事故報告書の提出やその都度ミーティングを開催している。	/	/	/	
		d	利用者一人ひとりの状態から考えられるリスクや危険について検討し、事故防止に取り組んでいる。	○	個別のリスクについては日頃から話し合っている。	/	/	/	
47	苦情への迅速な対応と改善の取り組み	a	苦情対応のマニュアルを作成し、職員はそれを理解し、適宜対応方法について検討している。	○	適宜対応している。	/	/	/	
		b	利用者や家族、地域等から苦情が寄せられた場合には、速やかに手順に沿って対応している。また、必要と思われる場合には、市町にも相談・報告等している。	○	速やかに対応している。必要があれば、市にも相談できている。	/	/	/	
		c	苦情に対しての対策案を検討して速やかに回答するとともに、サービス改善の経過や結果を伝え、納得を得ながら前向きな話し合いと関係づくりを行っている。	○	速やかに回答し、可能な範囲で改善を図るよう、努めている。	/	/	/	
48	運営に関する意見の反映	a	利用者や家族が意見や要望、苦情を伝えられる機会をつくっている。(法人・事業所の相談窓口、運営推進会議、家族会、個別に訊く機会等)	○	言いにくい場合は、行政機関への連絡先も伝えている。	◎	/	○	玄関スペースに、苦情用の意見箱が設置されている。日々の生活の中で、担当職員を中心に、利用者から意見や要望の聞き取りをしている。家族からは、電話連絡時を活用して、意見や要望、提案などを聞き、可能な範囲で対応をしている。また、管理者は職員から意見や提案を出しやすい環境を整備し、出された意見等は可能な限り、実現できるように努めている。予算などの状況により、管理者等は代替案を検討することもある。
		b	契約当初だけでなく、利用者・家族等が苦情や相談ができる公的な窓口の情報提供を適宜行っている。	○	契約時だけでなく、適宜行っている。	/	/	/	
		c	代表者は、自ら現場に足を運ぶなどして職員の意見や要望・提案等を直接聞く機会をつくっている。	◎	スタッフの意見や要望等は直接聞いている。	/	/	/	
		d	管理者は、職員一人ひとりの意見や提案等を聴く機会を持ち、ともに利用者本位の支援をしていくための運営について検討している。	○	利用者様にとってより良いケアとなるよう、検討している。	/	/	○	
49	サービス評価の取り組み	a	代表者、管理者、職員は、サービス評価の意義や目的を理解し、年1回以上全員で自己評価に取り組んでいる。	△	全員で取り組めてはいない。	/	/	/	外部評価の自己評価は、管理者等を中心に作成をしている。ミーティングや運営推進会議の中で、サービスの評価結果や目標達成計画の取り組み状況を報告しているが、書面開催が続いたことや家族の参加に限りがあることもあり、サービス評価の取り組みに対して、十分な理解を得ることはできていない。今後は、サービス評価の意義や目的を家族に伝える機会を設けたり、サービスの評価の結果や取り組み状況を伝えて意見をもらったり、取り組み状況の確認のモニターを呼びかけるなどの取り組みが行われることも期待される。また、職員に対して、サービス評価への認識と、重要性の理解を促していくことも期待される。
		b	評価(自己・外部・家族・地域)の結果を踏まえて、事業所の現状や課題を明らかにするとともに、実現可能な目標達成計画を作成し、その達成に向けて事業所全体で取り組んでいる。	○	可能な限り取り組んでいる。	/	/	/	
		c	評価結果と目標達成計画を市町、地域包括支援センター、運営推進会議メンバー、家族等に報告し、今後の取り組みのモニターをしてもらっている。	○	結果の報告や今後の取り組み等についてお伝えしている。	×	○	○	
		d	事業所内や運営推進会議にて、目標達成計画に掲げた取り組みの成果を確認している。	○	その都度、成果を確認している。	/	/	/	

項目 No.	評価項目	小項目	内容	自己 評価	判断した理由・根拠	家族 評価	地域 評価	外部 評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
50	災害への備え	a	様々な災害の発生を想定した具体的な対応マニュアルを作成し、周知している。(火災、地震、津波、風水害、原子力災害等)	○	作成し、周知している。	/	/	/	年2回、利用者と一緒に、火災などを想定した避難訓練を実施している。津波等の発生時には、建物の3階に垂直避難することとなっているが、訓練までは行われていない。また、市行政から福祉避難所に指定され、水や食料などの備蓄品を用意している。今後は、家族や地域住民に、災害の備えを周知したり、玄関スペースに、訓練の様子の写真を掲載したりするなど、理解が得られるような取り組みが行われることを期待したい。
		b	作成したマニュアルに基づき、利用者が、安全かつ確実に避難できるよう、さまざまな時間帯を想定した訓練を計画して行っている。	○	定期的な避難訓練を行っている。	/	/	/	
		c	消火設備や避難経路、保管している非常用食料・備品・物品類の点検等を定期的に行っている。	○	確認や点検をしている。	/	/	/	
		d	地域住民や消防署、近隣の他事業所等と日頃から連携を図り、合同の訓練や話し合う機会をつくるなど協力・支援体制を確保している。	△	代表者は地域合同での避難訓練に参加している。	△	×	○	
		e	災害時を想定した地域のネットワークづくりに参加したり、共同訓練を行うなど、地域の災害対策に取り組んでいる。(県・市町、自治会、消防、警察、医療機関、福祉施設、他事業所等)	○	福祉避難所の指定を受け、地域の災害対策には参加している。	/	/	/	
51	地域のケア拠点としての機能	a	事業所は、日々積み上げている認知症ケアの実践力を活かして地域に向けて情報発信したり、啓発活動等に取り組んでいる。(広報活動、介護教室等の開催、認知症サポーター養成研修や地域の研修・集まり等での講師や実践報告等)	○	地域ケア会議には、毎回参加している。	/	/	/	地域の看護学校の実習生の受け入れに協力できるようにしているが、現在は受け入れ要請がない状況となっている。法人内の隣接する建物の1階スペースで、「メモリーえくぼ」のカフェを実施していた際に、地域住民から相談が寄せられることがあったが、現在は休止状態で、地域活動を再開していくことも期待される。代表者と管理者は、「現在使用していない事業所の空きスペースを有効的に活用したい」と考えており、地域の交流の場に提供するなど、地域のケア拠点となるような取り組みが行われていくことも期待される。
		b	地域の高齢者や認知症の人、その家族等への相談支援を行っている。	○	相談には、随時対応している。	/	◎	○	
		c	地域の人たちが集う場所として事業所を解放、活用している。(サロン・カフェ・イベント等交流の場、趣味活動の場、地域の集まりの場等)	○	地域ケア会議に毎回参加している。	/	/	/	
		d	介護人材やボランティアの養成など地域の人材育成や研修事業等の実習の受け入れに協力している。	△	実習の受け入れ体制はあるが、申し出はない。	/	/	/	
		e	市町や地域包括支援センター、他の事業所、医療・福祉・教育等各関係機関との連携を密にし、地域活動を協働しながら行っている。(地域イベント、地域啓発、ボランティア活動等)	△	市の説明会や地域ケア会議には参加している。	/	/	○	

(別表第1)

サービス評価結果表

サービス評価項目

(評価項目の構成)

I. その人らしい暮らしを支える

(1) ケアマネジメント

(2) 日々の支援

(3) 生活環境づくり

(4) 健康を維持するための支援

II. 家族との支え合い

III. 地域との支え合い

IV. より良い支援を行うための運営体制

ホップ 職員みんなで自己評価!
 ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
 ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

【外部評価実施評価機関】※評価機関記入

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	愛媛県松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	令和 5 年 10 月 6 日

【アンケート協力数】※評価機関記入

家族アンケート	(回答数) 3名	(依頼数) 18名
地域アンケート回答数	1名	

※事業所記入

事業所番号	3890200011
事業所名	ウェルえがお
(ユニット名)	こすもす
記入者(管理者)	
氏名	黒川 瞳
自己評価作成日	令和 5 年 8 月 29 日

(別表第1の2)

<p>【事業所理念】</p> <p>1.私たちは、利用者様を笑顔にします。</p> <p>2.私たちは、利用者様と地域社会との架け橋になります。</p> <p>3.地域に根差し、安心と信頼の介護を通して社会に貢献します。</p>	<p>【前回の目標達成計画で取り組んだこと・その結果】</p> <p>1.家族会や運営推進会議のメンバーに改善に向けた取り組みをモニタリングしていただく等、家族に事業所の取り組みについて理解を得ることは、コロナ禍から徐々に以前の状態に戻っている状態であり、家族会も開催出来ていない。</p> <p>2.利用者様がより食事を楽しむことができるよう取り組むことについては、調理専属のスタッフが不在であるが、外食や各行事の際のお弁当(お花見弁当等)やおやつ作りを一緒に行うことで工夫している。</p>	<p>【今回、外部評価で確認した事業所の特徴】</p> <p>今治城や今治港の近くの交差点の角にある事業所は、道路沿いからすぐ入れることもあり、植栽が植えられるなど、地域住民も立ち寄りやすい雰囲気を感じられる。また、同法人が運営するグループホームの「ウェルえびす」があり、感染対策で現在は休止状態であるが、以前は1階スペースに地域交流のための「メモリーカフェくぼ」を開設し、地域住民も利用して、交流を図ることができていた。コロナ禍や感染対策で、事業所で生活を送る利用者に制限が設けられ、外出支援や地域との交流に影響が及んでいる。少しでも、利用者の生活の質が向上できるように、ユニットごとに2台のワゴン車を活用して、季節の花や海の絶景などを見に行ったり、利用者と一緒に外食に出かけたりするなど、気分転換を図れるよう支援している。徐々に、地域のおんま祭りやイベントが再開されるようになったことで、利用者が参加できる機会が増えてきている。さらに、毎月季節を感じる壁面の作品を作成して、季節を感じるとともに、利用者のやりがいや達成感に繋がっている。加えて、行事や誕生会などの行事を企画するとともに、各階にあるベランダから景色を眺めながら外気浴をするなど、利用者が穏やかに、楽しみのある生活が送れるよう支援している。代表者や管理者は、職員の相談に気軽に応じたり、人員配置までの余裕はないものの、希望休の取得を促したり、キャリアアップ制を導入するなど、働きやすい職場環境づくりに努めている。</p>
--	---	---

評価結果表

【実施状況の評価】

◎よくできている ○ほぼできている △時々できている ×ほとんどできていない

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
I.その人らしい暮らしを支える									
(1)ケアマネジメント									
1	思いや暮らし方の希望、意向の把握	a	利用者一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。	○	入居時の聞き取りにより、暮らし方の希望や意向の把握となるよう、努めている。	○	/	○	入居時に、職員は利用者や家族から、思いや暮らしに関する希望を聞き取るようにしている。また、日常の会話の中で、利用者から思いを聞くよう努めている。把握した情報は、利用者台帳に取りまとめられ、職員間で情報を共有している。さらに、介護計画の更新時にも、改めて利用者へアセスメントを行い、情報の更新をしている。日常の記録の中にも、聞き取った内容を記録に残すことで、ケアの展開がよりスムーズになることも期待される。
b	把握が困難な場合や不確かな場合は、「本人はどうか」という視点で検討している。	○	日頃からの話し合い等により、把握困難者の希望や意向の把握について検討している	/	/	/			
c	職員だけでなく、本人をよく知る人(家族・親戚・友人等)とともに、「本人の思い」について話し合っている。	○	電話等により日々の状態をお伝えし、その都度ご家族等に確認している。	/	/	/			
d	本人の暮らし方への思いを整理し、共有化するための記録をしている。	○	業務日誌や毎日の申し送りにより共有している。	/	/	/			
e	職員の思い込みや決めつけにより、本人の思いを見落とさないように留意している。	○	勝手な思い込みやスタッフ本位のケアとならないよう、努めている。	/	/	/			
2	これまでの暮らしや現状の把握	a	利用者一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、こだわりや大切にしてきたこと、生活環境、これまでのサービス利用の経過等、本人や本人をよく知る人(家族・親戚・友人等)から聞いている。	○	入居時の聞き取りやサービスを利用してからの暮らし方によりこだわりや習慣等を把握するようにしている。	/	/	◎	ICF情報整理シートを活用して、利用者の生活に関わる全体像の把握に努めている。入居時に、管理者等は利用者や家族と面会を行い、生活歴や生活環境などの聞き取りをしている。また、在宅生活から入居に繋がる利用者には、家族や親族から情報を聞くこともある。さらに、以前利用していたデイサービスや居宅介護支援事業所の担当者から情報の収集をしている。時には、利用者により、自治会や警察などの関係機関から、包括的に情報を聞くこともある。
b	利用者一人ひとりの心身の状態(身体面・精神面)や有する力(わかること・できること・できそうなこと等)等の現状の把握に努めている。	○	ミーティングや現況報告書の作成時等、現状把握に努めている。	/	/	/			
c	利用者一人ひとりの一日の過ごし方や24時間の生活の流れ・リズム等、日々の変化や違いについて把握に努めている。(生活環境・職員のかかわり等)	○	【1日のケア記録】等により、一人ひとりの生活リズムの把握に努めている。	/	/	/			
3	チームで行うアセスメント(※チームとは、職員のみならず本人・家族・本人をよく知る関係者等を含む)	a	把握した情報をもとに、本人が何を求め必要としているのかを本人の視点で検討している。	○	利用者様の視点で物事を考える事で、ニーズの把握となるよう、努めている。	/	/	◎	ミーティングの際に、職員間で話し合い、ICF情報整理シートを作成している。また、利用者ごとの担当職員が中心となり、一人ひとりの介護手順書を作成している。さらに、利用者がより良く暮らせるように、支援方法をきめ細かく整理することができている。
b	検討した内容に基づき、本人がより良く暮らすための課題の把握に努めている。	○	日頃の話合い等により、課題の把握に努めている。	/	/	/			
4	チームでつくる本人がより良く暮らすための介護計画	a	本人の思いや意向、暮らし方が反映された内容になっている。	○	本人様の思いや意向を反映できるよう、努めている。	/	/	/	事前に、利用者から意見や要望を聞くほか、家族から電話連絡時を活用して、意見や意向の聞き取りをしている。また、主治医から指示や助言をもらい、アセスメント情報や把握した情報をもとに、ミーティング時を活用して、職員間で意見やアイデアを出し合いながら話し合い、介護計画を作成している。また、眠前薬を使用するよりも、利用者のペースに合わせて、生活を送れることを優先した支援に取り組んでいる。さらに、介護支援計画の内容が、アセスメント内容を活用しながら、より個別具体的で支援の実施と評価に取り入れるなどの考慮が行われることも期待される。
b	本人がより良く暮らすための課題や日々のケアのあり方について、本人、家族等、その他関係者等と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映して作成している。	○	状況の変化や本人様、ご家族等の意見や意向を踏まえて作成するよう、努めている。	○	/	○			
c	重度の利用者に対しても、その人が慣れ親しんだ暮らし方や日々の過ごし方ができる内容となっている。	○	重度化した利用者様においてもこれまで通りの暮らしができるよう、努めている。	/	/	/			
d	本人の支え手として家族等や地域の人たちとの協力体制等が盛り込まれた内容になっている。	△	プラン内容はそうであっても状況により実施出来ていないことはある。	/	/	/			

項目 No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと			
5	介護計画に基づいた日々の支援	a	利用者一人ひとりの介護計画の内容を把握・理解し、職員間で共有している。	○	職員間で共有できるよう、その都度確認している。	/	/	/	◎	ミーティングを活用して、職員間で介護計画の内容を共有している。また、利用者の個別ファイルに計画は綴られ、職員は確認できるようになっている。ケアプランチェック一覧表を活用して、利用者の計画に沿った支援の実施記録を記載し、個別に実施状況が確認できるようになっている。さらに、個別の介護経過記録には、日勤帯は黒字、夜間帯は赤字で使い分けて、日々の生活の様子を記録に残すほか、生活と身体生活状況の記録で、利用者の状態が分かるようにしている。利用者が発した言葉を残したり、実際にどのように感じているかをくみ取ったりするなど、生活課題に直面した場合のヒントになることも考えられ、より個別具体的な記録を残していくことも期待される。		
		b	介護計画にそってケアが実践できたか、その結果どうだったかを個別具体的に記録して職員間で状況確認を行うとともに、日々の支援につなげている。	○	日々のかかわりの中で状況確認を行っている。	/	/	/	○			
6	現状に即した介護計画の見直し	a	介護計画の期間に応じて見直しを行っている。	○	期間内であっても入退院時には見直ししている。	/	/	/	◎	介護支援計画は、6か月に1回見直しをしている。また、認知症状の進行や退院などの大きな変化が生じた場合には、その都度見直しをしている。また、担当職員がケアプランチェック一覧表等を活用して、毎月利用者の現状を把握するとともに、現状報告書に写真を添えて家族に送付し、利用者の近況を伝えている。さらに、IADL・ADLごとの評価も行われ、日々の利用者の生活の様子を取りまとめて、記録を残している。		
		b	新たな要望や変化がみられない場合も、月1回程度は現状確認を行っている。	○	毎月の現況報告書作成により把握している。	/	/	/	◎			
		c	本人の心身状態や暮らしの状態に変化が生じた場合は、随時本人、家族等、その他関係者等と見直しを行い、現状に即した新たな計画を作成している。	○	介護計画の期間内であっても心身状態に大きな変化があった時には見直しを行っている	/	/	/	○			
7	チームケアのための会議	a	チームとしてケアを行う上での課題を解決するため、定期的、あるいは緊急案件がある場合にはその都度会議を開催している。	○	定期的あるいは適宜開催している。	/	/	/	◎	月1回ユニットごとにミーティングを実施し、情報共有をするほか、利用者の現状確認や課題などの話し合いをしている。また、法人内の主任会も開催され、各ユニットの主任が情報共有をしている。より有意義な会議となるように、事前に家族から意見や要望を聞くほか、職員から意見を出してもらっている。会議に参加できなかった職員には、議事録等を確認して押印するとともに、管理者が口頭で説明をしている。		
		b	会議は、お互いの情報や気づき、考え方や気持ちを率直に話し合い、活発な意見交換ができるよう雰囲気や場づくりを工夫している。	○	お互いが意見や気づきを話し合えるような雰囲気や関係づくりに努めている。	/	/	/	○			
		c	会議は、全ての職員を参加対象とし、可能な限り多くの職員が参加できるよう開催日時や場所等、工夫するとともに、参加できない職員にも内容を正確に共有している。	○	参加できなかったスタッフにも内容を共有できるよう、記録に目を通し、細部は口頭で説明している。	/	/	/	○			
8	確実な申し送り、情報伝達		日々の申し送りや情報伝達を行い、重要な情報は全ての職員に伝わるようにしている。(利用者の様子・支援に関する情報・家族とのやり取り・業務連絡等)		業務日誌や口頭での申し送り等により共有できるよう、努めている。	◎	/	/	○	日誌や申し送りノートを活用して、日々の申し送りを実施し、職員間で情報共有をしている。利用者の様子は、介護経過記録に記載され、申し送りは業務的な情報伝達となっている。また、出勤時等に日誌や申し送りノートなどを確認し、確認後に職員は押印するなど、確実な情報共有に繋げている。		
(2) 日々の支援												
9	利用者一人ひとりの思い、意向を大切に支援	a	利用者一人ひとりの「その日したいこと」を把握し、それを叶える努力を行っている。	○	その日の要望を実行できるよう、努めている。	/	/	/	/	着る服や飲み物、レクリエーションの参加の有無など、生活の様々な場面で、職員は声をかけ、利用者に自己決定や選択をしてもらえるよう支援している。自己決定が難しい利用者には、着る服を2種類用意し、表情やしぐさなどを観察しながら、二者択一で選んでもらえるように工夫をしている。また、選択方法を提示することに留まらず、職員は利用者の気持ちが動くように自然に声をかけて誘うなど、行動に結びつくような工夫も行われている。さらに、周りの利用者の雰囲気により外出や散歩に出かける際にも、自主的に利用者自身で意思決定できるような環境を設けている。加えて、職員は利用者の興味のある花や昔話などの話題を提供し、楽しく過ごすことができるようにしている。		
		b	利用者が日々の暮らしの様々な場面で自己決定する機会や場をつついている。(選んでもらう機会や場をつくる、選ぶのを待っている等)	△	選んでいただいたり、難しい場合は選択性にして自己決定できるよう、努めている。	/	/	/	/		○	
		c	職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースや習慣を大切に言葉かけや態度等について、常に意識して行動している。(人前であからさまな介護や誘導の声かけをしないよう配慮、目立たずさりげない言葉かけや対応等)	○	一人ひとりの生活ペースを尊重し、業務都合なスケジュールとならなよう、努めている。	/	/	/	/		○	
		d	利用者の活き活きした言動や表情(喜び・楽しみ・うるおい等)を引き出す言葉かけや雰囲気づくりをしている。	○	スタッフは日頃から親しみやすく接するよう努めている。	/	/	/	/		/	○
		e	意思疎通が困難で、本人の思いや意向がつかめない場合でも、表情や全身での反応を注意深くキャッチしながら、本人の意向にそった暮らし方ができるよう支援している。	○	意思疎通が困難な利用者様においても意向の表出を敏感にキャッチすることで、本人様の意向に沿った暮らしとなるよう、努めている。	/	/	/	/		/	/
10	一人ひとりの誇りやプライバシーを尊重した関わり	a	職員は、「人権」や「尊厳」とは何かを学び、利用者の誇りやプライバシーを大切に言葉かけや態度等について、常に意識して行動している。(人前であからさまな介護や誘導の声かけをしないよう配慮、目立たずさりげない言葉かけや対応等)	○	社会の功労者である利用者様には、尊敬の念をもってのお声掛けとプライバシーにも配慮した行動をするよう、意識している。	◎	◎	◎	◎	人権や尊厳などの勉強会を実施し、職員は声のかけ方などの注意を払い、意識した対応に努めている。また、ミーティングなどを活用して、職員間で振り返りや話し合いを行い、きつい言葉や命令口調で話さないように注意喚起をしている。さらに、居室を利用者のプライバシーのある空間と認識し、居室への入室の際に、職員はノックや声かけをしてから入室するとともに、不在時にも、事前にシーツ交換などで入室することを伝えて、利用者にて了承を得た上で、入室することができている。		
		b	職員は、排泄時や入浴時には、不安や羞恥心、プライバシー等に配慮しながら介助を行っている。	○	羞恥心や不安感、あるいはプライバシーに配慮しながら行っている。	/	/	/	/		◎	
		c	職員は、居室は利用者専用の場所であり、プライバシーの場所であることを理解し、居室への出入りなど十分配慮しながら行っている。	○	居室への入室時にはお声掛けやノック、フロアにいる際には、お声掛けしている。	/	/	/	/		◎	
		d	職員は、利用者のプライバシーの保護や個人情報漏えい防止等について理解し、遵守している。	○	入社時にも個人情報保護の誓約書を書いている。	/	/	/	/		/	

項目 No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
11	ともに過ごし、支え合う関係	a	職員は、利用者を介護される一方の立場におかず、利用者に助けってもらったり教えてもらったり、互いに感謝し合うなどの関係性を築いている。	○	日頃のコミュニケーションの中で学ぶ機会も多く、軽作業等も手伝っていただいている。	/	/	/	同じテーブルで食事をする際に、他の利用者の食べこぼしを気にして、注意する利用者があり、職員は席を移動するなどの対応をしている。時には、きつい口調で話す利用者の様子も見られ、職員が早期に間に入って仲介するなど、利用者同士と一緒に穏やかな生活が送れるよう支援している。また、ムードメーカー的な役割を担う男性利用者もおり、場を盛り上げてくれることもあり、職員は大いに助かっている。職員の聞き取りから、「日々の会話の中で、利用者から個別に希望を聞くことに努めている」などの話が聞かれ、利用者に寄り添う支援心がけている様子をうかがうことができた。
		b	職員は、利用者同士がともに助け合い、支え合って暮らしていくことの大切さを理解している。	○	共同生活であることの意味を理解し、支え合うことの大切さも理解している。	/	/	/	
		c	職員は、利用者同士の関係を把握し、トラブルになったり孤立したりしないよう、利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。(仲の良い利用者同士が過ごせる配慮をする、孤立しがちな利用者が交わる機会を作る、世話役の利用者にうまく力を発揮してもらつ場面をつくる等)。	△	フロアの配席を変更したり、聞き上手な利用者様にも助けていただきながら、大きなトラブルに発展しないよう、工夫している。	/	/	○	
		d	利用者同士のトラブルに対して、必要な場合にはその解消に努め、当事者や他の利用者に不安や支障を生じさせないようにしている。	○	利用者様同士の相性の把握等、不安感やトラブルとならないよう、スタッフがサポートしている。	/	/	/	
12	馴染みの人や場との関係継続の支援	a	これまで支えてくれたり、支えてきた人など、本人を取り巻く人間関係や馴染みの場所などについて把握している。	○	入居時の聞き取りや担当CMがいる場合には、情報を提供していただくことで、把握している。	/	/	/	
		b	知人や友人等が気軽に訪れたり、本人が知人や友人等に会いに行ったり、馴染みの場所に出かけていたりなど、これまで大切にしてきた人や場所との関係が途切れないよう支援している。	○	馴染みの美容室や協力病院以外のかかりつけ医等、なじみの暮らしが継続できるよう、努めている。	/	/	/	
13	日常的な外出支援	a	利用者(および意思表示が困難な場合はご家族)の希望に沿って、戸外に出かけられるよう取り組んでいる。(職員側の都合を優先したり、外出する利用者、時間帯、行き先などが固定化していない) (※重度の場合は、戸外に出て過ごすことも含む)	○	天候等を見ながら外出ドライブをして気分転換となるよう、努めている。	△	×	○	コロナ禍や感染対策が続き、外出制限が設けられ、徐々に緩和されているが、家族との外出は禁止された状態が続いている。天気の良い日には、屋外やベランダに出て外気浴をしたり、事業所周辺を散歩したりすることができている。また、ユニットごとに2台のワゴン車を活用して、季節の花や海の絶景などを見に行ったり、利用者と一緒に外出に出かけたりするなど、気分転換を図れるよう支援している。
		b	家族、地域の人やボランティア、認知症サポーター等の協力も得ながら、外出支援をすすめている。	○	馴染みの美容室や法事等はご家族の支援による。	/	/	/	
14	心身機能の維持、向上を図る取り組み	a	職員は認知症や行動・心理症状について正しく理解しており、一人ひとりの利用者の状態の変化や症状を引き起こす要因をひもとき、取り除くケアを行っている。	○	日々のケアの中で、状態や症状の変化を引き起こす要因を回避しながら支援している。	/	/	/	事業所として、アセスメントなどで、利用者のできることやできそうなことを把握し、自分でできる洗濯物たたみや編み物、テーブル拭き、モップ掛けなどをしてもらい、職員は見守りや待つ介護を心がけた支援に努めている。また、日課で午前中に歌を歌ったり、体操を実施したりするなど、活発な活動を行い、少しでも利用者の心身機能の維持を図れるよう支援している。訪問調査日には、職員の弾きピアノに合わせて、利用者が一緒に笑顔で歌を歌う様子を見ることができた。
		b	認知症の人の身体面の機能低下の特徴(筋力低下・平衡感覚の悪化・排泄機能の低下・体温調整機能の低下・嚥下機能の低下等)を理解し、日常生活を営む中で自然に維持・向上が図れるよう取り組んでいる。	○	毎日の暮らしの中で、ADLの維持・向上が望めるよう、軽作業やレクリエーション、体操等に取り組んでいる。	/	/	/	
		c	利用者の「できること、できそうなこと」については、手や口を極力出さずに見守ったり一緒に行うようにしている。(場面づくり、環境づくり等)	△	スタッフによっては、手や口を出してしまう者もいるのが現状である。	◎	/	○	
15	役割、楽しみごと、気晴らしの支援	a	利用者一人ひとりの生活歴、習慣、希望、有する力等を踏まえて、何が本人の楽しみごとや役割、出番になるのかを把握している。	○	日頃のかかわりの中でコミュニケーションや軽作業を通じて役割や楽しみが創出できるよう、努めている。	/	/	/	洗濯物たたみや下膳、テーブル拭き、清掃など、職員は声をかけ、利用者のできることや得意な役割を担ってもらえるよう支援している。中には、世話好きの利用者もおり、他の利用者に励ましの声をかけたり、下膳や車いすを押すのを手伝ったりする利用者もいる。また、毎月壁面の作品づくりが行われ、テーマを決めて利用者が作成し、出来あがった作品を見て、やりがいや達成感を味わえるようにしている。さらに、外出に出かけ、利用者の気晴らしや楽しみに繋がっている。
		b	認知症や障害のレベルが進んでも、張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、日常的に、ホームの内外で一人ひとりの楽しみごとや役割、出番をつくる取り組みを行っている。	△	ホーム外での張り合いや喜びのある支援が出来ているとは言い難い。	◎	◎	○	

項目 No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
16	身だしなみやおしゃれの支援	a	身だしなみを本人の個性、自己表現の一つととらえ、その人らしい身だしなみやおしゃれについて把握している。	○	その人らしい身だしなみを把握して大切にするとともにあまりにも季節感とかけ離れている場合には、助言している。				衣類の汚れや整容の乱れが見られた場合には、職員が少し離れた場所でさりげなく声をかけてフォローをしたり、居室等に移動して着替えてもらったりするなどの対応をしている。認知症状の進行に伴い、着替えなどを利用者無理強いできない場合もあり、職員が見守りをして対応することもある。また、定期的に訪問理美容の来訪があり、好みの髪型に整えるとともに、中には、馴染みの美容室に出かける利用者もいる。起床時に、化粧をして口紅を差したり、ヘアウイッグを使用したりするなど、おしゃれを楽しむ利用者もいる。外出時に、男性利用者はひげを剃ったり、着る服やバックを選んだりすることのできる利用者もいる。さらに、重度の利用者にも、家族の協力を得ながら好みの服を着てもらったりなど、本人らしさが継続できるような支援にも努めている。
		b	利用者一人ひとりの個性、希望、生活歴等に応じて、髪形や服装、持ち物など本人の好みに整えられるように支援している。	○	服装や装飾品等、馴染みのもので整えられるよう、支援している。				
		c	自己決定がしにくい利用者には、職員と一緒に考えたりアドバイスする等本人の気持ちにそって支援している。	○	自己決定が難しい利用者様には、選択制にする等により、本人様の意向に沿えるよう努めている。				
		d	外出や年中行事等、生活の彩りにあわせたその人らしい服装を楽しめるよう支援している。	○	外出時や行事等、その人らしさにあった服装となるよう、支援している。				
		e	整容の乱れ、汚れ等に対し、プライドを大切にしたりさりげなくカバーしている。(髭、着衣、履き物、食べこぼし、口の周囲等)	○	整容や汚れがある場合は、さりげなく促したり、お声掛けすることで、自尊心が傷つかないよう配慮している。	◎	◎	◎	
		f	理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。	△	特に拘りのない利用者様には訪問美容室で対応している。				
		g	重度な状態であっても、髪形や服装等本人らしさが保てる工夫や支援を行っている。	○	重度な状態であっても、その人らしさが保てるよう、支援している。			○	
17	食事を楽しむことのできる支援	a	職員は、食事の一連のプロセスの意味や大切さを理解している。	○	理解している。				事業所では、昼食と夕食は宅配弁当を利用し、事業所で炊飯を行い、利用者に食事を提供している。朝食は、宅配弁当の業者には、利用者のアレルギーの有無や苦手な食材を伝えて代替の食材を用意してもらうとともに、献立に偏りがないように打ち合わせをすることができている。以前は、調理専属の職員がキッチンで手作りの食事を調理することができていたが、職員の不足や人員配置の状況に応じて、代表者と管理者が地産地消で食材を使用する地元の業者を選定している。弁当容器も、通常の食器の方が食べやすくなる利用者には、食器での提供の対応をしている。なでしこユニットでは、食器や箸を入居時に使い慣れた物を持ってきてもらったり、誕生日にプレゼントされた湯飲みや箸を使用したりしている。食事のペースを調整しにくい利用者には、誤嚥を予防するために小分けにするなどの工夫が行われている。また、少しでも食事が楽しめるように、外食を取り入れたり、行事の際に、巻き寿司やいなり寿司、うどんを利用者と一緒に調理したりしている。誕生日には、プリンやケーキのデコレーションを行って提供し、利用者に喜ばれている。重度な食事介助を要する利用者が増加し、食事の際に、職員は見守りやサポートを行い、利用者と別々の時間帯に食事を摂っている。食べることが困難になった利用者には、おかゆやムース食を用意するなど、利用者に合わせて、段階的に食べやすい食事の形態に対応をしている。食事の際に、弁当容器の下にランチョンマットを使用することで、食事の雰囲気づくりをしている。また、栄養士からの助言をもらうことができているものの、栄養バランスやバイタル、BMIを確認し、医師に情報を提供した上で、アドバイスをもらうこともある。利用者の生活を継続するという意味で現状の対応は否めないが、視点を忘れずに継続した検討が行われていくことも期待される。
		b	買い物や献立づくり、食材選び、調理、後片付け等、利用者とともにやっている。	△	後片付けに取り組んでいただいている。				
		c	利用者とともに買い物、調理、盛り付け、後片付けをする等を行うことで、利用者の力の発揮、自信、達成感につなげている。	○	食後の後片付けやテーブル拭き等に参加いただくことで、自信や達成感につなげている。				
		d	利用者一人ひとりの好きなものや苦手なもの、アレルギーの有無などについて把握している。	○	入居時の聞き取りや暮らしの中での嗜好の変化により把握している。				
		e	献立づくりの際には、利用者の好みや苦手なもの、アレルギー等を踏まえつつ、季節感を感じさせる旬の食材や、利用者にとって昔なつかしいもの等を取り入れている。	△	アレルギー等を選けたものになっている。行事の際のおやつ等、季節を感じられるものになっている。			○	
		f	利用者一人ひとりの咀嚼・嚥下等の身体機能や便秘・下痢等の健康状態にあわせた調理方法としつつ、おいしそうな盛り付けの工夫をしている。(安易にミキサー食や刻み食で対応しない、いろどりや器の工夫等)	△	嚥下機能により、とろみや刻み食で対応している。				
		g	茶碗や湯飲み、箸等は使い慣れたもの、使いやすいものを使用している。	○	茶碗や湯呑は馴染みのものを使用されている。			○	
		h	職員も利用者と同じ食卓を囲んで食事を一緒に食べながら一人ひとりの様子を見守り、食事のペースや食べ方の混乱、食べこぼしなどに対するサポートをさりげなく行っている。	△	支援が必要な方が多く、一緒に食べることは難しい。			○	
		i	重度な状態であっても、調理の音やにおい、会話などを通して利用者が食事が待ち遠しくおいしく味わえるよう、雰囲気づくりや調理に配慮している。	△	食材によっては出来ている。		◎	○	
		j	利用者一人ひとりの状態や習慣に応じて食べれる量や栄養バランス、カロリー、水分摂取量が1日を通じて確保できるようにしている。	○	状態に応じて栄養や水分を摂取できるよう、努めている。				
		k	食事量が少なかったり、水分摂取量の少ない利用者には、食事の形態や飲み物の工夫、回数やタイミング等工夫し、低栄養や脱水にならないよう取り組んでいる。	○	毎日の食事量や水分量を把握することで、低栄養や脱水とならないよう、努めている。				
		l	職員で献立のバランス、調理方法などについて定期的に話し合い、偏りがないように配慮している。場合によっては、栄養士のアドバイスを受けている。	×	外注なので難しい。			○	
		m	食中毒などの予防のために調理用具や食材等の衛生管理を日常的に行い、安全で新鮮な食材の使用と管理に努めている。	○	次亜塩素水で消毒し、清潔保持に努めている。				

項目 No.	評価項目	小項目	内容	自己 評価	判断した理由・根拠	家族 評価	地域 評価	外部 評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
18	口腔内の清潔保持	a	職員は、口腔ケアが誤嚥性肺炎の防止につながることを知っており、口腔ケアの必要性、重要性を理解している。	○	理解している。	/	/	/	月1回歯科医の往診があるほか、歯科衛生士から指導やアドバイスをもらうなど、職員は口腔ケアの重要性を理解している。毎食後に、職員は声をかけ、利用者は歯磨きなどの口腔ケアを実施するとともに、必要に応じて、見守りやサポートをしている。職員は介助や磨き残しなどのサポートをしながら、口腔内の状況の把握に努めている。義歯は夜間に預かり、消毒液に浸けるなどの清潔保持に努めている。また、訴えのほか、口腔内に異常が見られた場合には家族に相談し、早期の歯科医の受診に繋げている。
		b	利用者一人ひとりの口の中の健康状況(虫歯の有無、義歯の状態、舌の状態等)について把握している。	○	把握している。	/	/	○	
		c	歯科医や歯科衛生士等から、口腔ケアの正しい方法について学び、日常の支援に活かしている。	○	歯科医師や衛生士より助言を受けている。	/	/	/	
		d	義歯の手入れを適切に行えるよう支援している。	○	食後のケアや就寝前には洗浄している。	/	/	/	
		e	利用者の力を引き出しながら、口の中の汚れや臭いが生じないよう、口腔の清潔を日常的に支援している。(歯磨き・入れ歯の手入れ・うがい等の支援、出血や炎症のチェック、歯科医の受診等)	○	口腔内に残渣物がないよう、努めている。	/	/	○	
19	排泄の自立支援	a	職員は、排泄の自立が生きる意欲や自信の回復、身体機能を高めることにつながることや、おむつ(紙パンツ・パッドを含む)の使用が利用者の心身に与えるダメージについて理解している。	△	トイレで排せつされるよう支援しているが、本人様やご家族の希望や意向により使用する場合もある。	/	/	/	事業所では排泄チェック表を利用して、利用者の排泄パターンを把握し、定期的なトイレ誘導のほか、個別に声をかけるなどの支援をしている。トイレで利用者が排泄できることを基本とした支援に努めているが、利用者の排泄状況に応じて、中には、夜間にポータブルトイレを使用している利用者もいる。こまめな声かけやトイレ誘導をすることにより、布パンツを履いて過ごすことのできている2名の利用者があるものの、ほとんどの利用者は紙パンツやパッドを使用している。また、適切な排泄用品をミーティングの中で話し合い、家族に相談した上で、使用や変更を検討している。さらに、現在は、下剤を服用している利用者はおらず、ヨーグルトなどの乳製品を摂取したり、体操を取り入れたりするなど、自然な排便ができるようにコントロールすることができている。
		b	職員は、便秘の原因や及ぼす影響について理解している。	○	理解している。	/	/	/	
		c	本人の排泄の習慣やパターンを把握している。(間隔、量、排尿・排便の兆候等)	○	1日のケア記録等を活用することで、把握している。	/	/	/	
		d	本人がトイレで用を足すことを基本として、おむつ(紙パンツ・パッドを含む)使用の必要性や適切性について常に見直し、一人ひとりのその時々状態にあった支援を行っている。	○	トイレでの排せつを基本としている。	◎	/	◎	
		e	排泄を困難にしている要因や誘因を探り、少しでも改善できる点はないか検討しながら改善に向けた取り組みを行っている。	○	服薬状況や身体状況等をその都度確認し、改善に努めている。	/	/	/	
		f	排泄の失敗を防ぐため、個々のパターンや兆候に合わせて早めの声かけや誘導を行っている。	○	排せつパターンを把握し、早めのお声掛けや誘導に努めている。	/	/	/	
		g	おむつ(紙パンツ・パッドを含む)を使用する場合は、職員が一方的に選択するのではなく、どういった時間帯にどのようなものを使用するか等について本人や家族と話し合い、本人の好みや自分で使えるものを選択できるよう支援している。	○	オムツ類を使用する場合は、スタッフの決めつけでなく、本人様の希望やご家族の意向も考慮している。	/	/	/	
		h	利用者一人ひとりの状態に合わせて下着やおむつ(紙パンツ・パッドを含む)を適時使い分けている。	○	利用者様一人ひとりに合わせて使い分けている。	/	/	/	
		i	飲食物の工夫や運動への働きかけなど、個々の状態に応じて便秘予防や自然排便を促す取り組みを行っている。(薬に頼らない取り組み)	○	ヨーグルトや牛乳等を活用することで、自然排便となるよう、努めている。	/	/	/	
20	入浴を楽しむことができる支援	a	曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、利用者一人ひとりの希望や習慣にそって入浴できるよう支援している。(時間帯、長さ、回数、温度等)。	○	可能な限り、要望に沿ったものとしている。	◎	/	○	浴室には一般浴槽が設置されているが、重度化に伴い、湯船に浸かることが難しい利用者が多く、シャワー浴や足浴で対応することが多くなっている。利用者の希望に応じて、湯の温度や量の調整をするなど、柔軟に対応をしている。また、毎日の入浴を可能としているが、現在は希望する利用者はおらず、週3回程度、利用者の入浴を支援している。さらに、季節に応じて、ゆず湯にしたり、自分のシャンプーや石鹸を使用したりするなど、少しでも入浴が楽しめるように工夫をしている。
		b	一人ひとりが、くつろいだ気分で入浴できるよう支援している。	○	くつろいで入居できるよう、努めている。	/	/	/	
		c	本人の力を活かしながら、安心して入浴できるよう支援している。	○	できる限りご自身で洗身されるよう、支援している。	/	/	/	
		d	入浴を拒む人に対しては、その原因や理由を理解しており、無理強いせずに気持ち良く入浴できるよう工夫している。	○	お声掛け方法やタイミング等を工夫している。	/	/	/	
		e	入浴前には、その日の健康状態を確認し、入浴の可否を見極めるとともに、入浴後の状態も確認している。	○	バイタルチェック等により体調や状態の把握に努めている。	/	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
21	安眠や休息の支援	a	利用者一人ひとりの睡眠パターンを把握している。	○	日々のケアにより把握している。	/	/	/	事業所には現在眠剤等を服用している利用者はおらず、日中に散歩や体操を取り入れるなど、夜間に利用者が良眠できるよう支援している。また、夜間は寝巻に着替えて就寝してもらうなど、メリハリのある生活が送れるよう支援している。また、居室の灯の明るさを調整できるようになっているほか、点灯を紐式リモコンの両方を使用することができるようにしている。認知症状の進行により、紐が付いていることに混乱する利用者には、紐を取り外す対応をしている。
		b	夜眠れない利用者についてはその原因を探り、その人本来のリズムを取り戻せるよう1日の生活リズムを整える工夫や取り組みを行っている。	○	あまり眠れない利用者様には、日中の活動量を増やしたりすることで、生活リズムが整うよう、努めている。	/	/	/	
		c	利用者の数日間の活動や日中の過ごし方、出来事、支援内容などを十分に検討し、医師とも相談しながら総合的な支援を行っている。	○	安易に睡眠導入剤を使用しないよう、努めている。	/	/	/	
		d	休息や昼寝等、心身を休める場が個別に取れるよう取り組んでいる。	○	傾眠や疲れた表情が見られる際には、お声掛けにより居室で休んでいただくよう、促している。	/	/	/	
22	電話や手紙の支援	a	家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	○	電話の要望がある方に支援している。携帯電話を持たれている方もおられる。	/	/	/	
		b	本人が手紙が書けない、電話はかけられないと決めつけず、促したり、必要な手助けをする等の支援を行っている。	△	こちらから促してはいない。	/	/	/	
		c	気兼ねなく電話できるよう配慮している。	△	気兼ねなく会話できるよう、フロアとは別空間で対応している。	/	/	/	
		d	届いた手紙や葉書をそのままにせず音信がとれるように工夫している。	○	本人様にお渡しして必要な場合は、代読している。	/	/	/	
		e	本人が電話をかけることについて家族等に理解、協力してもらうとともに、家族等からも電話や手紙をくれるようお願いしている。	○	入居時に聞き取りをして協力をお願いしている。	/	/	/	
23	お金の所持や使うことの支援	a	職員は本人がお金を所持すること、使うことの意味や大切さを理解している。	○	所持される方には、入居時に紛失するリスクがあることを説明している。	/	/	/	
		b	利用者が気兼ねなく安心して買い物ができるよう、日頃から買い物先の理解や協力を得る働きかけを行っている。	○	買い物先でなく、外食先であれば行っている。	/	/	/	
		c	「希望がないから」「混乱するから」「失くすから」などと一方的に決めてしまうのではなく、家族と相談しながら一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	○	そのように対応している。	/	/	/	
		d	お金の所持方法や使い方について、本人や家族と話し合っている。	○	行えている。	/	/	/	
		e	利用者が金銭の管理ができない場合には、その管理方法や家族への報告の方法などルールを明確にしており、本人・家族等の同意を得ている。(預り金規程、出納帳の確認等)。	○	同意を得ている。	/	/	/	
24	多様なニーズに応える取り組み		本人や家族の状況、その時々ニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	○	お試しや生活保護への対応等、柔軟に対応している。	○	/	◎	感染対策が続き、家族との外食に制限を設けているが、冠婚葬祭などの参加で、別室で食事ができる場合には、許可を出すこともある。また、利用者や家族から出された要望には、可能な範囲で柔軟な対応に努めている。時には、通販の購入を希望する利用者職員が手助けをして、月末等に家族に精算払いをしてもらったり、週末に教会に行きたい利用者の送迎をしたりすることもある。
(3)生活環境づくり									
25	気軽に入れる玄関まわり等の配慮		利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、気軽に入ることができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。	○	植栽をしたり、気軽に立ち寄れる環境づくりに努めている。	○	◎	○	今治港や今治城の近くにある3階建ての建物は、交差点の角にあり、道路沿いからすぐ入れることもあり、植栽が植えられるなど、地域住民も立ち寄りやすい雰囲気となっている。自動ドアの内側にはベンチが置かれ、近隣住民が座ってひと休みすることもある。

項目 No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
26	居心地の良い共用空間づくり	a	共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、家庭的な雰囲気有しており、調度や設備、物品や装飾も家庭的で、住まいとしての心地良さがある。(天井や壁に子供向けの飾りつけをしていたり、必要なものしか置いていない殺風景な共用空間等、家庭的な雰囲気をそぐような設えになっていないか等。)	○	季節が感じられるような飾り付けをしている。	○	○	○	感染対策で、訪問調査日には事業所内を見学することはできなかったが、テラスより窓越しに室内を見ることができ、リビングは各居室とキッチンに囲まれるような構造で、テーブル席と大きなソファが置かれ、利用者が職員のピアノの伴奏に合わせて、歌を歌う様子が見られた。また、程よい高さの畳スペースが設けられ、設置された手すりのある階段から上がることができ、体操する際に職員がお手本を見せる場所として使用されている。共用スペースは清掃が行き届き、壁面の作品から季節を感じることができる。落ち着ける空間となっているが、認知症状の進行した利用者の混乱をさけるために、手の届くところに馴染みの物や生活用品は少なく、必要に応じて職員が提供をしている。
		b	利用者にとって不快な音や光、臭いがないように配慮し、掃除も行き届いている。	○	換気や調光に配慮し、不快な空間とならないよう努めている。	/	/	○	
		c	心地よさや能動的な言動を引き出すために、五感に働きかける様々な刺激(生活感や季節感を感じるもの)を生活空間の中に採り入れ、居心地よく過ごせるよう工夫している。	○	季節感がわかるような飾り付けや献立、季節行事を取り入れている。	/	/	○	
		d	気の合う利用者同士で思い思いに過ごせたり、人の気配を感じながらも独りになれる居場所の工夫をしている。	○	気の合う利用者様同士で話されたり、一人で過ごされたい時には、自室で少しドアを開けて過ごされてはどうか助言している。	/	/	/	
27	居心地良く過ごせる居室の配慮		本人や家族等と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	○	入居時に使い慣れたものや馴染みのものを持参いただいている。	○	/	○	居室にはベッドや収納が用意されている。利用者は、使い慣れた物や馴染みの物を持ち込むことができるが、すっきりと片づけられた居室も多い。また、家族の要望から、写真などを配置している利用者もいる。
28	一人ひとりの力が活かせる環境づくり	a	建物内部は利用者一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、混乱や失敗を防ぎ、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように配慮や工夫をしている。	○	トイレや浴室は分かりやすい工夫と手すりの配置により、自立した生活を送れるよう、配慮している。	/	/	○	建物内部の写真を見ることができ、清潔で車いすの利用者も利用しやすいトイレや浴室が設置されている。廊下等には手すりが設置され、利用者が移動しやすいように動線が確保されている。また、居室やトイレの場所が認識しやすいように、分かりやすい表示を付けたたり、人形などを使用して目印を付ける工夫をしている。利用者が混乱や失敗しないことを優先する環境づくりに留まることなく、利用者の生活が豊かになる環境づくりに着目した支援の検討が行われることも期待される。
		b	利用者の活動意欲を触発する馴染みの物品が、いつでも手に取れるように生活空間の中にさりげなく置かれている。(ぼうき、裁縫道具、大工道具、園芸用品、趣味の品、新聞・雑誌、ポット、急須・湯飲み・お茶の道具等)	○	新聞や雑誌等、手に取れるように配慮している。	/	/	/	
29	鍵をかけないケアの取り組み	a	代表者及び全ての職員が、居室や日中にユニット(棟)の出入り口、玄関に鍵をかけることの弊害(鍵をかけられ出られない状態で暮らしていることの異常性、利用者にもたらす心理的不安や閉塞感・あきらめ・気力の喪失、家族や地域の人にもたらす印象のデメリット等)を理解し、日中は玄関に鍵をかけなくても済むように工夫している。(外出の察知、外出傾向の把握、近所の理解・協力の促進等)	○	建物出入口は日中施錠していない	×	○	○	日中に、建物の1階にある出入り口は施錠をしておらず、防犯のために、19時から7時まで施錠をしている。感染対策もあり、2階と3階に上がることを制限している。エレベーターを上がると、各ユニットに入るエレベーターホールがあり、ユニットの入り口の施錠は行われていない。外に出ようとする利用者がある場合には、職員間で鍵をかけない対応を話し合い、支援方針を決定するなど、鍵をかけることの利用者の弊害だけでなく、職員間での支援の向き合い方にも影響すると考えられ、チーム体制で対応を検討している。
		b	鍵をかけない自由な暮らしについて家族の理解を図っている。安全を優先するために施錠を望む家族に対しては、自由の大切さと安全確保について話し合っている。	○	入居時に説明しているが、安全を優先するご家族しかいない。	/	/	/	
(4) 健康を維持するための支援									
30	日々の健康状態や病状の把握	a	職員は、利用者一人ひとりの病歴や現病、留意事項等について把握している。	○	日々の話し合いや申し送りにより把握に努めている。	/	/	/	
		b	職員は、利用者一人ひとりの身体状態の変化や異常のサインを早期に発見できるように注意しており、その変化やサインを記録に残している。	○	毎日のケアやバイタルチェックにより、何か変化があれば病院受診できるよう、努めている。	/	/	/	
		c	気になることがあれば看護職やかかりつけ医等にいつでも気軽に相談できる関係を築き、重度化の防止や適切な入院につなげる等の努力をしている。	○	気になる事、気付いた事は、かかりつけ医、訪問看護師等に相談し、重度化の予防や適切な入院に努めている。	/	/	/	
31	かかりつけ医等の受診支援	a	利用者一人ひとりのこれまでの受療状況を把握し、本人・家族が希望する医療機関や医師に受診できるよう支援している。	◎	協力医療機関以外のかかりつけ医も受診できる体制である。	◎	/	/	
		b	本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	◎	基本的には、ご家族様での受診をお願いしているが、同行が必要な場合や家族が遠方な場合には、スタッフで対応している。	/	/	/	
		c	通院の仕方や受診結果の報告、結果に関する情報の伝達や共有のあり方等について、必要に応じて本人や家族等の合意を得られる話し合いを行っている。	◎	合意を得ている。	/	/	/	

項目 No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
32	入退院時の医療機関との連携、協働	a	入院の際、特にストレスや負担を軽減できる内容を含む本人に関する情報提供を行っている。	◎	入院時には、医療機関への情報提供を行っている。	/	/	/	
		b	安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、日頃から病院関係者との情報交換や相談に努めている。	◎	定期的な聞き取り等により早期退院となるように努めている。	/	/	/	
33	看護職との連携、協働	a	介護職は、日常の関わりの中で得た情報や気づきを職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談している。看護職の配置や訪問看護ステーション等との契約がない場合は、かかりつけ医や協力医療機関等に相談している。	◎	日頃のかかわりの中で状態の変化や気になることがある場合には、主治医や訪問看護師へ相談し、適切な医療が受けられるよう、努めている。	/	/	/	
		b	看護職もしくは訪問看護師、協力医療機関等に、24時間いつでも気軽に相談できる体制がある。	◎	いつでも相談できる体制が整っている。	/	/	/	
		c	利用者の日頃の健康管理や状態変化に応じた支援が適切にできるよう体制を整えている。また、それにより早期発見・治療につなげている。	◎	健康管理や適切な治療に繋がるよう、努めている。	/	/	/	
34	服薬支援	a	職員は、利用者が使用する薬の目的や副作用、用法や用量について理解し、本人の状態の経過や変化などを記録し、家族や医師、看護職等に情報提供している。	◎	処方せんを確認して、理解している。	/	/	/	
		b	利用者一人ひとりが医師の指示どおりに服薬できるよう支援し、飲み忘れや誤薬を防ぐ取り組みを行っている。	◎	医師の指示通りに服薬できるよう、努めている。	/	/	/	
		c	服薬は本人の心身の安定につながっているのか、また、副作用(周辺症状の誘発、表情や活動の抑制、食欲の低下、便秘や下痢等)がないかの確認を日常的に行っている。	◎	副作用と思しき症状を確認した際には、速やかに服薬を中止し、医師に相談している。	/	/	/	
35	重度化や終末期への支援	a	重度化した場合や終末期のあり方について、入居時、または状態変化の段階ごとに本人・家族等と話し合いを行い、その意向を確認しながら方針を共有している。	○	状態が変化した場合は、その都度主治医やご家族等と相談しながら、意向の確認と方針を共有している。	/	/	/	事業所として、看取りの支援は実施しておらず、入居時に家族等に対応できることなどを説明するとともに、事業所の退去後の意向の確認も行われている。利用者にはそれぞれの主治医がおり、認知症状の進行や重度化した場合には、家族を含めて主治医と相談を行い、方針を共有して、転居などを支援している。認知症の進行は、服薬の見直しや入院による調整で対応できる場合もあり、可能な限り、事業所での生活が継続して送ることのできるよう、関係者や職員間で検討をしている。
		b	重度化、終末期のあり方について、本人・家族等だけでなく、職員、かかりつけ医・協力医療機関等関係者で話し合い、方針を共有している。	○	重度化した場合にその都度確認するようになっている。	○	/	○	
		c	管理者は、終末期の対応について、その時々職員の思いや力量を把握し、現状ではどこまでの支援ができるかを見極めを行っている。	○	終末期の対応については、入居時に説明を行うとともに医療行為が発生しない限りは支援している。	/	/	/	
		d	本人や家族等に事業所の「できること・できないこと」や対応方針について十分な説明を行い、理解を得ている。	○	入居時や重度化の都度、説明している。	/	/	/	
		e	重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、家族やかかりつけ医など医療関係者と連携を図りながらチームで支援していく体制を整えている。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。	○	可能な限り支えられるよう、努めている。	/	/	/	
		f	家族等への心理的支援を行っている。(心情の理解、家族間の事情の考慮、精神面での支え等)	◎	状態をこまめに報告することで、不安が軽減されるよう努めている。	/	/	/	
36	感染症予防と対応	a	職員は、感染症(ノロウイルス、インフルエンザ、白癬、疥癬、肝炎、MRSA等)や具体的な予防策、早期発見、早期対応策等について定期的に学んでいる。	○	各種マニュアルを活用し、予防に努めている。	/	/	/	
		b	感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、万が一、感染症が発生した場合に速やかに手順にそった対応ができるよう日頃から訓練を行うなどして体制を整えている。	○	感染症が発生した場合には、蔓延しないよう努めている。	/	/	/	
		c	保健所や行政、医療機関、関連雑誌、インターネット等を通じて感染症に対する予防や対策、地域の感染症発生状況等の最新情報を入手し、取り入れ、随時対応している。	○	各情報媒体を通じて感染症発生状況の把握に努めている。	/	/	/	
		d	職員は手洗いうがいがいなど徹底して行っており、利用者や来訪者等についても清潔が保持できるよう支援している。	○	手洗いうがいがい徹底だけでなく、マスクの着用もお願いしている。	/	/	/	

項目 No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
II. 家族との支え合い									
37	本人とともに支え合う家族との関係づくりと支援	a	職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽をともにし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	○	その時の状況によるが、通院や美容室への付き添い等、お願いしている。	/	/	/	毎月、利用者ごとの担当職員を中心に、介護支援計画の評価と利用者の暮らしの様子が分かりやすい現況報告書を作成するとともに、写真を添えて、家族向けのお便りを送付し、利用者の近況を伝えている。感染対策もあり、面会などに制限が設けられ、事業所内の入室のほか、家族との面会や外食は行われていない。家族から、誕生日にプレゼントが届けられるほか、敬老の日に手紙が届くこともあり、利用者は楽しみにしている。文字を読むことができない利用者には、職員が代読することもあり、家族にお礼の電話をかけることもある。管理者等は、「コロナ禍等で実施できなかった家族と一緒に支え合う関係を再構築していきたい」などと考え、家族の企画する外出支援のほか、家族同士の交流会も実施の検討をしている。今後は、少しずつ面会や外出の制限を緩和し、利用者や家族が望む対応に応じていくことも期待される。
		b	家族がホームでの活動に参加できるように、場面や機会を作っている。(食事づくり、散歩、外出、行事等、家族同士の交流)	○	通院や外出支援(美容室、法事等)には参加されている。	○	/	○	
		c	家族が知りたいことや不安に感じていること等の具体的内容を把握して、家族の来訪時や定期的な報告などにより、利用者の暮らしぶりや日常の様子を具体的に伝えている。(「たより」の発行・送付、メール、行事等の録画、写真の送付等)	◎	毎月、現況報告書に日頃や行事でのご様子、写真等を送付している。また、状態が変化した際には、その都度電話連絡している。	◎	/	◎	
		d	これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係を築いていけるように支援している。(認知症への理解、本人への理解、適切な接し方・対応等についての説明や働きかけ、関係の再構築への支援等)	△	面会も再開し、家族間のより良い関係作りができるよう、努めている。	/	/	/	
		e	事業所の運営上の事柄や出来事について都度報告し、理解や協力を得るようにしている。(行事、設備改修、機器の導入、職員の異動・退職等)	○	現況報告書や電話連絡等で報告している。	○	/	○	
		f	利用者一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている。	○	起こり得るリスクについては、入居時及びその都度(状態変化時等)お伝えし、対応策を検討している。	/	/	/	
		g	家族が、気がかりなことや、意見、希望を職員に気軽に伝えたり相談したりできるように、来訪時の声かけや定期的な連絡等を積極的に行うことで、居心地よく安心して過ごせるような雰囲気づくりや対応を行っている。(来やすい雰囲気、関係再構築の支援、湯茶の自由利用、居室への宿泊のしやすさ等)	○	面談時のお声掛けや電話連絡時等、意向や要望を気軽に伝えやすいよう、努めている。	/	/	○	
38	契約に関する説明と納得	a	契約の締結、解約、内容の変更等の際は、具体的な説明を行い、理解、納得を得ている。(食費、光熱水費、その他の自己負担額、敷金設定の場合の償却、返済方法等)	◎	契約の際に十分な説明を行い、同意を得ている。	/	/	/	
		b	退居については、契約に基づくとともにその決定過程を明確にし、利用者や家族等に具体的な説明を行った上で、納得のいく退居先に移れるように支援している。退居事例がない場合は、その体制がある。	◎	契約時及び改定時には、説明を行い、同意を得ている。	/	/	/	
III. 地域との支え合い									
39	地域とのつきあいやネットワークづくり ※文言の説明 地域:事業所が所在する市町の日常生活圏、自治会エリア	a	地域の人に対して、事業所の設立段階から機会をつくり、事業所の目的や役割などを説明し、理解を図っている。	○	開設時の内覧会や地域ケア会議への参加等により、理解を図れるよう、努めている。	/	◎	/	コロナ禍や感染対策もあり、積極的に地域との交流を図ることはできていない。隣接する同法人のグループホームの1階部分に「メモリーえくぼ」というカフェがあり、管理者等は、「地域とのネットワークづくりの環境を再開したい」と考えている。法人の会長が自治会に開設当初から加入し、継続をしている。地域住民の高齢化や過疎化が進行するとともに、企業が多いことなどの条件が重なり、自治会活動は活発には行われていなかったが、令和5年の秋祭りから、地域の神輿や子どもの来訪が再開され、駐車場のスペースを活用して交流をしている。
		b	事業所は、孤立することなく、利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、地域の人たちに対して日頃から関係を深める働きかけを行っている。(日常的なあいさつ、町内会・自治会への参加、地域の活動や行事への参加等)	△	自治会への参加や地方祭への参加等、行っている。	/	x	○	
		c	利用者を見守ったり、支援してくれる地域の人たちが増えている。	x	そうは思わない。	/	/	/	
		d	地域の人が気軽に立ち寄りたり遊びに来たりしている。	x	時折、相談や訪ねて来られる方はいる。	/	/	/	
		e	隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらうなど、日常のおつきあいをしている。	△	外出時や散歩時に挨拶を交わす程度である。	/	/	/	
		f	近隣の住民やボランティア等が、利用者の生活の拡がりや充実を図ることを支援してくれるよう働きかけを行っている。(日常的な活動の支援、遠出、行事等の支援)	x	ボランティアの依頼が来ないので受入れもしていない。	/	/	/	
		g	地域の人たちや周辺地域の諸施設からも協力を得て、安全で豊かな暮らしができるよう、日頃から理解を拡げる働きかけや関係を深める取り組みを行っている(公民館、商店・スーパー・コンビニ、飲食店、理美容店、福祉施設、交番、消防、文化・教育施設等)。	△	地域ケア会議には、毎回参加している。	/	/	/	

項目 No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
40	運営推進会議を活かした取り組み	a	運営推進会議には、毎回利用者や家族、地域の人等の参加がある。	○	現在は、家族の参加はない	×	/	△	感染対策もあり、運営推進会議は書面開催が続いていたが、令和6年3月の会議から集合形式の会議が開催できるようになっている。参加メンバーには、電話で会議の開催案内をお知らせしている。書面開催時にも、参加メンバーに要望や意見を書く様子を配布していたが、意見が出されていない状況となっており、家族に参加への理解を促したり、家族の意見を取り入れるために情報提供をしたり、事業所運営に関する関係者、学校や近隣企業に参加協力を依頼するなど、有意義な会議としていくような工夫が行われることも期待される。また、会議の中で、サービスの評価結果の重要性、評価内容をしっかりと伝えていくことも望まれる。
		b	運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況(自己評価・外部評価の内容、目標達成計画の内容と取り組み状況等)について報告するとともに、会議で出された意見や提案等を活かした結果等も報告し、議事録を公表している。	○	報告している。	/	○	○	
		c	テーマに合わせて参加メンバーを増やしたり、メンバーが出席しやすい日程や時間帯について配慮・工夫をしている。	×	メンバーは変わらない。	/	-	/	
IV.より良い支援を行うための運営体制									
41	理念の共有と実践	a	地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、代表者、管理者、職員は、その理念について共通認識を持ち、日々の実践が理念に基づいたものになるよう日常的に取り組んでいる。	○	理念に沿ったケアができるよう、努めている。	/	/	/	
		b	利用者、家族、地域の人たちにも、理念をわかりやすく伝えている。	○	分かりやすい理念としている。	○	×	/	
42	職員を育てる取り組み ※文言の説明 代表者:基本的には運営している法人の代表者であり、理事長や代表取締役が該当するが、法人の規模によって、理事長や代表取締役をその法人の地域密着型サービス部門の代表者として扱うのは合理的ではないと判断される場合、当該部門の責任者などを代表者として差し支えない。したがって、指定申請書に記載する代表者と異なることはありうる。	a	代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、計画的に法人内外の研修を受けられるよう取り組んでいる。	○	各ユニットの主任が研修に参加し、ミーティング等で共有している。	/	/	/	代表者と管理者は、利用者や職員といつでも話やすく、キャリアアップ制を取り入れるなど、働きやすい環境整備に努めている。以前は、定期的に職員と面談をすることができていたが、日常的に相談しやすく、その必要性が低いために現在は面談を実施していない。また、職員の休みの希望などを可能な範囲で取り入れて、勤務シフトを作成するようにしている。また、事業所内で勉強会を実施し、職員のスキルアップに努めているが、感染対策もあり、外部研修までに参加する機会は少なくなっている。さらに、職員のストレス軽減が、利用者の生活の質を向上させるケアへのモチベーションに繋がることを重要視して、傾聴だけに留まらず、職員に対してのさらなる働きやすい環境整備が行われていくことも期待される。
		b	管理者は、OJT(職場での実務を通して行う教育・訓練・学習)を計画的に行い、職員が働きながらスキルアップできるよう取り組んでいる。	○	働きながら研修への参加や資格が取得しやすいよう、シフト調整等の配慮に努めている。	/	/	/	
		c	代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	○	働きやすい環境づくりに努めている。	/	/	/	
		d	代表者は管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互研修などの活動を通して職員の意識を向上させていく取り組みをしている。(事業者団体や都道府県単位、市町単位の連絡会などへの加入・参加)	×	今治市グループホーム協会に参加していたが、現在は活動休止となっている。	/	/	/	
		e	代表者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。	○	日頃の声掛けや個人的な相談等、行えている。	○	○	○	
43	虐待防止の徹底	a	代表者及び全ての職員は、高齢者虐待防止法について学び、虐待や不適切なケアに当たるのは具体的にどのような行為なのかを理解したうえで、これらが見逃ごされることがないように注意を払い、発見した場合の対応方法や手順についても理解している。	○	定期的なミーティングや研修への参加等により、理解を深めている。	/	/	○	不適切な言動を発見した場合には、管理者等が該当職員に声をかけて事実の確認をしている。また、ミーティングを活用して、不適切な言動の状況の報告や支援内容の提案などを行い、チーム体制で情報を共有するとともに、主任会の中でも、再発防止に向けた情報共有が行われている。また、愛媛県社会福祉士会が実施する虐待防止研修に参加するとともに、職員は伝達講習を行っている。さらに、虐待防止チェックシートを活用して、職員の振り返りが行われている。
		b	管理者は、職員とともに日々のケアについて振り返ったり話し合ったりする機会や場をつくっている。	○	ミーティング等で話し合う場を設けている。	/	/	/	
		c	代表者、管理者は職員の疲労やストレスが利用者へのケアに影響していないか日常的に注意を払い、点検している。	○	ストレスチェックやシフトの調整等で配慮している。	/	/	/	
44	身体拘束をしないケアの取り組み	a	代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」や「緊急やむを得ない場合」とは何かについて正しく理解している。	○	正しく理解している。	/	/	/	
		b	どのようなことが身体拘束に当たるのか、利用者や現場の状況に照らし合わせて点検し、話し合う機会をつくっている。	○	話し合う機会を設け、理解している。	/	/	/	
		c	家族等から拘束や施錠の要望があっても、その弊害について説明し、事業所が身体拘束を行わないケアの取り組みや工夫の具体的な内容を示し、話し合いを重ねながら理解を図っている。	○	理解を図るよう、努めている。	/	/	/	

項目 No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
45	権利擁護に関する制度の活用	a	管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学び、それぞれの制度の違いや利点などを理解したうえで、利用者や家族の現状を踏まえ、パンフレット等の情報提供や相談に乗る等の支援を行っている。	○	実際に活用している。こちらの勧めにより活用された方もいる。	/	/	/	
		b	支援が必要な利用者が制度を利用できるよう、地域包括支援センターや専門機関(社会福祉協議会、後見センター、司法書士等)との連携体制を築いている。	○	相談に乗ったり、然るべき機関へつなげている	/	/	/	
46	急変や事故発生時の備え・事故防止の取り組み	a	怪我、骨折、発作、のど詰まり、意識不明等利用者の急変や事故発生時に備えて対応マニュアルを作成し、周知している。	○	マニュアルや緊急時の対応について、話し合っている。	/	/	/	
		b	全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	○	定期的に話し合い実践力を身に付けている。	/	/	/	
		c	事故が発生した場合の事故報告書はもとより、事故の一步手前の事例についてもヒヤリハットにまとめ、職員間で検討するなど再発防止に努めている。	○	事故報告書の提出やその都度ミーティングを開催している。	/	/	/	
		d	利用者一人ひとりの状態から考えられるリスクや危険について検討し、事故防止に取り組んでいる。	○	個別のリスクについては日頃から話し合っている。	/	/	/	
47	苦情への迅速な対応と改善の取り組み	a	苦情対応のマニュアルを作成し、職員はそれを理解し、適宜対応方法について検討している。	○	適宜対応している。	/	/	/	
		b	利用者や家族、地域等から苦情が寄せられた場合には、速やかに手順に沿って対応している。また、必要と思われる場合には、市町にも相談・報告等している。	○	速やかに対応している。必要があれば、市にも相談できている。	/	/	/	
		c	苦情に対しての対策案を検討して速やかに回答するとともに、サービス改善の経過や結果を伝え、納得を得ながら前向きな話し合いと関係づくりを行っている。	○	速やかに回答し、可能な範囲で改善を図るよう、努めている。	/	/	/	
48	運営に関する意見の反映	a	利用者や家族が意見や要望、苦情を伝えられる機会をつくっている。(法人・事業所の相談窓口、運営推進会議、家族会、個別に訊く機会等)	○	言いにくい場合は、行政機関への連絡先も伝えている。	◎	/	○	玄関スペースに、苦情用の意見箱が設置されている。日々の生活の中で、担当職員を中心に、利用者から意見や要望の聞き取りをしている。家族からは、電話連絡時を活用して、意見や要望、提案などを聞き、可能な範囲で対応をしている。また、管理者は職員から意見や提案を出しやすい環境を整備し、出された意見等は可能な限り、実現できるように努めている。予算などの状況により、管理者等は代替案を検討することもある。
		b	契約当初だけでなく、利用者・家族等が苦情や相談ができる公的な窓口の情報提供を適宜行っている。	○	契約時だけでなく、適宜行っている。	/	/	/	
		c	代表者は、自ら現場に足を運ぶなどして職員の意見や要望・提案等を直接聞く機会をつくっている。	◎	スタッフの意見や要望等は直接聞いている。	/	/	/	
		d	管理者は、職員一人ひとりの意見や提案等を聴く機会を持ち、ともに利用者本位の支援をしていくための運営について検討している。	○	利用者様にとってより良いケアとなるよう、検討している。	/	/	○	
49	サービス評価の取り組み	a	代表者、管理者、職員は、サービス評価の意義や目的を理解し、年1回以上全員で自己評価に取り組んでいる。	△	全員で取り組めてはいない。	/	/	/	外部評価の自己評価は、管理者等を中心に作成をしている。ミーティングや運営推進会議の中で、サービスの評価結果や目標達成計画の取り組み状況を報告しているが、書面開催が続いたことや家族の参加に限りがあることもあり、サービス評価の取り組みに対して、十分な理解を得ることはできていない。今後は、サービス評価の意義や目的を家族に伝える機会を設けたり、サービスの評価の結果や取り組み状況を伝えて意見をもらったり、取り組み状況の確認のモニターを呼びかけるなどの取り組みが行われることも期待される。また、職員に対して、サービス評価への認識と、重要性の理解を促していくことも期待される。
		b	評価(自己・外部・家族・地域)の結果を踏まえて、事業所の現状や課題を明らかにするとともに、実現可能な目標達成計画を作成し、その達成に向けて事業所全体で取り組んでいる。	○	可能な限り取り組んでいる。	/	/	/	
		c	評価結果と目標達成計画を市町、地域包括支援センター、運営推進会議メンバー、家族等に報告し、今後の取り組みのモニターをしてもらっている。	○	結果の報告や今後の取り組み等についてお伝えしている。	×	○	○	
		d	事業所内や運営推進会議にて、目標達成計画に掲げた取り組みの成果を確認している。	○	その都度、成果を確認している。	/	/	/	

項目 No.	評価項目	小項目	内容	自己 評価	判断した理由・根拠	家族 評価	地域 評価	外部 評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
50	災害への備え	a	様々な災害の発生を想定した具体的な対応マニュアルを作成し、周知している。(火災、地震、津波、風水害、原子力災害等)	○	作成し、周知している。	/	/	/	年2回、利用者と一緒に、火災などを想定した避難訓練を実施している。津波等の発生時には、建物の3階に垂直避難することとなっているが、訓練までは行われていない。また、市行政から福祉避難所に指定され、水や食料などの備蓄品を用意している。今後は、家族や地域住民に、災害の備えを周知したり、玄関スペースに、訓練の様子の写真を掲載したりするなど、理解が得られるような取り組みが行われることを期待したい。
		b	作成したマニュアルに基づき、利用者が、安全かつ確実に避難できるよう、さまざまな時間帯を想定した訓練を計画して行っている。	○	定期的な避難訓練を行っている。	/	/	/	
		c	消火設備や避難経路、保管している非常用食料・備品・物品類の点検等を定期的に行っている。	○	確認や点検をしている。	/	/	/	
		d	地域住民や消防署、近隣の他事業所等と日頃から連携を図り、合同の訓練や話し合う機会をつくるなど協力・支援体制を確保している。	△	代表者は地域合同での避難訓練に参加している。	△	×	○	
		e	災害時を想定した地域のネットワークづくりに参加したり、共同訓練を行うなど、地域の災害対策に取り組んでいる。(県・市町、自治会、消防、警察、医療機関、福祉施設、他事業所等)	○	福祉避難所の指定を受け、地域の災害対策には参加している。	/	/	/	
51	地域のケア拠点としての機能	a	事業所は、日々積み上げている認知症ケアの実践力を活かして地域に向けて情報発信したり、啓発活動等に取り組んでいる。(広報活動、介護教室等の開催、認知症サポーター養成研修や地域の研修・集まり等での講師や実践報告等)	○	地域ケア会議には、毎回参加している。	/	/	/	地域の看護学校の実習生の受け入れに協力できるようにしているが、現在は受け入れ要請がない状況となっている。法人内の隣接する建物の1階スペースで、「メモリーえくぼ」のカフェを実施していた際に、地域住民から相談が寄せられることがあったが、現在は休止状態で、地域活動を再開していくことも期待される。代表者と管理者は、「現在使用していない事業所の空きスペースを有効的に活用したい」と考えており、地域の交流の場に提供するなど、地域のケア拠点となるような取り組みが行われていくことも期待される。
		b	地域の高齢者や認知症の人、その家族等への相談支援を行っている。	○	相談には、随時対応している。	/	◎	○	
		c	地域の人たちが集う場所として事業所を解放、活用している。(サロン・カフェ・イベント等交流の場、趣味活動の場、地域の集まりの場等)	○	地域ケア会議に毎回参加している。	/	/	/	
		d	介護人材やボランティアの養成など地域の人材育成や研修事業等の実習の受け入れに協力している。	△	実習の受け入れ体制はあるが、申し出はない。	/	/	/	
		e	市町や地域包括支援センター、他の事業所、医療・福祉・教育等各関係機関との連携を密にし、地域活動を協働しながら行っている。(地域イベント、地域啓発、ボランティア活動等)	△	市の説明会や地域ケア会議には参加している。	/	/	○	